THE Lion

IN JAPAN
Official publication
of Lions Clubs
International

6
第51巻
第12号
June 2009

THEME 高齢社会

日本の総人口に占める65歳以上の割合は
1994年に14%を超え、日本は「高齢社会」に突入した。
高齢社会のニーズに応えるライオンズの活動事例を紹介。

ライオンズ公園への、そして多くの奉仕への情熱が奇跡を起こす

私のクラブは（そしてきっとあなたのクラブも）、会員自らが興味を持ち、楽しめる事業を選んで行うことで成功しています。どの地域にも奉仕すべきニーズは数多くありますが、ライオンズがそのすべてに対応することは出来ません。そこで私たちは、最も情熱を注ぐことの出来るものを選びます。私たちが良い奉仕を行えるのは、自分たちのしていることを大切に思えているからこそなのです。

ライオンズ公園に強い思い入れを持っている会員は少なくないでしょう。私も子どもの頃、近所のライオンズ公園で遊んだのを覚えており、その町についての良い思い出となっています。ライオンズ公園は地域の財産です。中にはあって当然のものだと思っている人もいるかもしれません。青い地球でさえ、いつでも、いつまでも存在するものだと思ってしまいがちです。しかし、公園の整備をしているクラブならご存じの通り、野球場、遊び場、避難所の管理、そしてもちろん芝生、草花、木々、植え込みの世話といったものには、時間とお金がかかるものです。多くの人が利用する公園は、多くのメンテナンスが必要です。公園がよく整備されていればいるほど利用者が増え、結果としてまたより綿密な整備が必要となるという連鎖がそこにはあります。

こうした連鎖はライオンズのアクティビティ全般に言えることです。奉仕の対象が青少年であれ、視覚障害を持つ人であれ、高齢者であれ、良い奉仕をすればするほど、更に多くの人が私たちを必要とし、より多くの奉仕を求めてくるでしょう。人は、私たちの出す結果をまず見るものです。良い奉仕をしていれば、必ずより重要な支援が求められるようになるのです。

旅先で、私は多くのライオンズ公園を目にします。私たちが住み良い地域づくりを続ければ、そうした活動は良い印象として残り、ライオンズのイメージ向上、ひいては新会員の増加につながるでしょう。それはスポーツ広場や公共の庭園の整備であっても、アイバンク、奨学金、レオクラブや青少年支援であっても構いません。私たちが得意とすることを行うことが、地域だけでなく協会のためにもなるのです。

ですから、奉仕活動を続けてください。自分の情熱に誠実であってください。その先にあるのは、奉仕で起こる奇跡の連続です。ゴミだらけだったかもしれない荒地が、遊ぶ子どもたちの笑い声、野球場の歓声、そして日差しの下でベンチに座ってくつろぐ父母やお年寄りの安らぎに満ちた、緑の空間となる――誰もが忙しくストレスを抱えている今日、こうした安らぎの瞬間もまた、奇跡です。

Al Brandel

2008-09年度国際会長
アルバート·F·ブランデル

THE LION MAGAZINE IN JAPAN
June 2009, Vol.51 No.12

We Serve CONTENTS

2009年6月号　表紙
高知県四万十市
四万十川
写真／田中勝明
■詳細はウェブマガジンで
https://www.thelion-mag.jp

THEME 高齢社会

日本の総人口に占める65歳以上の割合は1994年に14%を超え、日本は「高齢社会」に突入した。高齢化率50%を超える高知県大豊町と、お年寄りが生き生きする街作りで活性化を図った島根県松江市の天神商店街を訪ね現状をリポート。また、高齢社会のニーズに応えるライオンズクラブの活動事例を紹介する。

写真／田中勝明

高齢社会の処方箋

高知県大豊町と島根県松江市の場合

写真／田中勝明　取材／鈴木秀晃

昨年暮れ、国立社会保障・人口問題研究所が、市区町村別の将来推計人口を発表した。それによると、全国の高齢化率（65歳以上の割合）は前回国勢調査が行われた2005年の20・2%から、2035年には33・7%に上昇。市区町村別に見ると、高齢化率40%を超える自治体は、この間に2・8%から41・7%へ著しく増加するという。

高齢社会をも通過し、超高齢社会を突き進む日本。今後、どのような社会を構築していくべきか。高齢化率50%を超え、「限界集落」の言葉が生まれた高知県の中山間地・大豊町と、47都道府県で最も高齢化が進む島根県の県庁所在地・松江市の取り組みを参考に、「明るい高齢社会」の処方箋を探る。

四国三郎・吉野川の源流域、高齢化率52%の「限界自治体」を訪ねて

大豊町は四国三郎の異名を持つ吉野川の源流域、四国山地の中央部にあり、北を愛媛と徳島に接する県境の町だ。人口約5200人。そのうち約52%を、65歳以上の高齢者が占める。人口が5千人を超える自治体で、高齢化率が50%を超えるのは、全国でこの大豊町だけである。

1955（昭和30）年に4カ村が合併して大豊村が誕生した時、人口は2万2386人だった。戦後の木材需要の高まりと共に、国は農地から杉への転作を奨励、自治体で数字を競わせた。大豊でも山の斜面に広がっていた棚田が杉林に生まれ変わり、木材を都市に供給する林業や炭焼、また農業や養蚕で町は活気づいた。が、高度成長時代に入ると、若者たちは山を捨て都市へと流出。山には、杉とお年寄りが取り残される結果となった。

「最近、よく『限界集落』という言葉を聞くと思いますが、大豊はまさにその言葉が生まれた地域です」

岩崎憲郎町長（大豊ライオンズクラブ）は開口一番そう切り出した。

「限界集落」とは1991年、高知大学の大野晃教授（現長野大学）が提唱した概念で、65歳以上の高齢者が半数を超え、集落の社会的共同生活の維持が困難な集落をそう呼んだ。また55歳以上が半数を超えたものを「準限界集落」、それ以外を「存続集落」とした。

「大豊町は標高200～800メートルの急傾斜地に集落が点在しています。現在、85の集落があり、そのうち55が限界集落、26が準限界集落で、存続集落は四つしかありません。2007年度は出生が12人に対し、死亡は126人。昨年暮れの発表では、人口減少率が全国ワースト3位でした。町民の平均年齢は59歳、まもなく60歳という少子高齢

化を絵に描いたような町で、大野教授の概念によれば、町自体が『限界自治体』ということになります」

と岩﨑町長は、町の概要をレクチャーしてくれた。が、暗くなるような数字のオンパレードでも、町長の表情は意外なほど明るい。

「数字的には、確かに厳しいです。しかし、私自身が大豊に生まれ育ったということを差し引いても、この町は魅力のある町、そして可能性のある町だと思っています」

環境と安全をキーワードに、山に人が住むことの重要性を訴える

岩﨑町長がキーワードに挙げるのは「環境」と「安全」だ。

「環境の世紀に入り、山村の果たす役割が見直される時代になったと思うんです。京都議定書の温室効果ガスの削減目標のうち、省エネなどの取り組みによる削減0・6%、排出権取引で1・6%に対し、森林の吸収量は3・8%と、最も多くの温室効果ガスの吸収源とされています。人が生きていく上で最も大切な水と空気を守る重要な環境資源、それが森林なのです。そして大豊にはその森林があります。

また、食の安全が取りざたされる中、安心して食べられる野菜の供給地として、山村の使命はこれまで以上に重要度を増しているはずです。過疎化が進んではいますが、今はチャンスにもなり得る時期と考えています」

そんな前向きな町長には悪いのだが、仮に限界集落が消滅の道を歩んだとしたら、どういうことになるか、考えてみよう。もし、集落が消滅し、杉林に何年も人の手が入らなくなったとしたら……。

実は大豊町では伐採されずに生長した杉などの森林で、水分が大気中に放出される蒸発散の量が増え、河川への流出量が減っているという。これまで大豊町の水道普及率は低く、約70%にとどまっていた。いまだ3割の家が、山のわき水をホースで引いて飲料水にしている。が、ここにきてわき水の量が減り始め、初めて町の水道を引く町民も増えてきている。岩﨑町長は、

「山には緑がいっぱいなのに、そんな町で水涸れが起きているとは、誰も思わないでしょうね。山の保水機能が失われているんです」

と説明してくれた。

農学博士で『緑のダム』、『森林の百科』などの著書を持つ東京大学の蔵治

光一郎講師は、「森林には洪水緩和と渇水緩和の機能が期待されているが、森林は水資源の涵養には『一時保水力』がプラスに働くものの、蒸散により川の水量そのものを減少させる機能もある」とし、森林の「消失保水力」としての機能を軽視すべきではないと語る。

「限界集落」という言葉の産みの親・大野教授も次のように話す。

「保水力の低下した山は渇水や水害を発生させ、下流域の都市住民や漁業者の生活にも影響を及ぼしている。限界集落は、今や山村住民の問題にとどまらず、都市住民や漁業者も無視出来ない状況にあり、国民総意で考えていかなければならない問題となっている」

その上で大野教授は「流域共同管理論」を提起。山の問題がリアルな形で下流に顕在化してきている今、流域住民全体で「人間と自然」が共に豊かになる社会の実現に取り組み、それを公的に支援していく新しい社会システムが必要だと説く。つまり、都市と地方は対立するものではなく、上流、中流、下流を一つの「流域社会圏」とし、下流の人たちが上流を支援し、上流の人はその支援を受けながら地域を守っていくというものだ。

それは「山村の役割が見直される時代」とする岩崎町長も同じ思いで「山に人が暮らすことの重要性を訴えていきたい」と、熱く語っていた。

山村の営みそのものを生かした体験事業で、地域を元気に

大豊町は96年、町とJAなどが出資して第三セクターの㈱大豊ゆとりファーム（代表取締役：岩崎町長）を設立した。ゆとりファームは大豊町庵谷（いおのたに）の水稲生産組合の業務を引き継ぐ形で設立された。同組合は農作業受託を行い、高齢化が進む庵谷集落の棚田を保全し、農家の労力の軽減を図っていた。が、次第に集落外の農家からも委託を求められることが増え、町が乗り出してくれることになったのだ。

高知市菜園場にある大豊町農産物直売所

また大豊町では、農地保全は集落維持につながるとの考えに立って、山間地の耕作者に10アール当たり2万2500円の直接助成をしている。参入企業である大豊ゆとりファームも同様の支援を受けており、棚田の耕作放棄を防ぐ制度として活用されている。この制度は後に、農林水産省が「初めての地方からの提案」として採用。大豊をモデルに、中山間地における農業の直接支払制度を導入した。

更に大豊ゆとりファームで作った米や野菜は、高知市に設けたアンテナショップ「大豊町農産物直売所」で販売。味の良さと共に安全・安心面で高く評価され、好調な売れ行きを見せている。実は2月号の特集「日本の食を考える」で登場して頂いた高知の伝統食研究の第一人者、松﨑淳子高知女子大学名誉教授も、この直売所がごひいきで、２月号取材の際にも案内して頂いた。

こうした動きの中、町の人たちも自らの手でさまざまな取り組みを始めている。その一つが、東庵谷地区で結成された「せせらぎ会」の活動だ。

具体的には農業体験、地域資源、伝統文化という山村の営みをそのまま活用した体験事業により、大豊への訪問者を増やし、地域の活性化を図ろうというもの。まず取り組んだのが地区集会所のリニューアルだった。

「高知県中山間地域産業再生モデル事業の助成を受け、宿泊が出来るように改装し、外には体験道場を建てました。道場にはピザ窯や昔ながらのかまどを整備し、地元の食材で山菜ピザや田舎こんにゃく、豆腐などを作ってもらおうというものです。地元の人たちが指導をしながら体験して頂くので、交流にもなりますし、評判は上々です」

と、せせらぎ会の秋山征男会長（大豊ライオンズｸﾗﾌﾞ会長）が説明してくれた。これが刺激となり、他の地区でも近々、同じような体制を整える予定だという。「この町は魅力のある町、そして可能性のある町」と話していた岩﨑町長の言葉が思い出された。

意表を突く天神様のイメチェンで、お年寄りを引きつけた松江の商店街

島根県東部、宍道湖と中海に挟まれた松江市は、ちょうど山陰地方の中央部にあり、古くから山陰の中心都市となっていた。江戸時代には松江藩の城下町として栄え、江戸期の代表的茶人の一人で、「不昧（ふまい）」の号で知られた第7代藩主松平治郷などが治めていた。

今回の舞台・松江天神町商店街は、そんな江戸期をしのばせる松江城と、JR松江駅のほぼ中間、双方からはおよそ6～7分歩いた所にある。この商店街が今、安心・安全な街作りで全国的に注目を集めている。

話はちょうど10年前にさかのぼる。1999年2月、松江市から天神町商店街に対し、「全国に先駆けて、この地区を高齢者が住みやすいモデル地区にしないか」との打診があった。

島根県の高齢化率は28・1％で、全国の都道府県で最も高い割合となっている。県庁所在地の松江市では、この傾向はしばらく続くと見て、話を持ちかけてきたのだった。松江市では天神町を中心とする白潟地区が、最も高齢化率が高く29％を超えており、また独り暮らしのお年寄りも多いことから白羽の矢が立ったそうだ。

駅にも近い中心地にあるため、それ

までは「明るく」「生き生きとした」「若い人向けの」街づくりしか考えていなかった商店街の人たちは、この降って湧いたような話に、だいぶ戸惑ったという。

「それでも、一つの地方都市の特性を生かした、商店街生き残りのための模索として面白い構想ですし、何より育った街に愛着があるので、お引き受けすることにしました」

と、松江天神町商店街協同組合の中村寿男理事長は話す。が、実際に何をしたらいいのかが分からない。

とりあえず商店街の若手に声を掛けたところ、25人のメンバーが集まった。そこで「天神町街づくり委員会」を起ち上げ、毎週火曜日に早朝ミーティングを行うと共に、金曜日には松江市、松江市商工会議所TMO（街づくり委員会）とのワーキング会議も持った。

また「おばあちゃんの原宿」と呼ばれる東京・巣鴨の地蔵通り商店街を始め、各地の元気な商店街を数カ所視察。それをもとに、天神町商店街の活性化案を話し合ったところ、ある若手から突拍子もないアイデアが出された。

天神町の南端に、歴代松江藩主の尊崇を受け、庶民の間でも学問の神様として広く信仰されてきた白潟天満宮がある。その天神様をお年寄り向けにイメチェンしてしまおうという案だった。

巣鴨の商店街をリサーチした結果、お年寄りが集まるのはとげ抜き地蔵があればこそで、買い物よりお参りの方が出掛けやすいことに気がついた。そこで、天神様に一肌脱いでもらおうというわけだ。が、お年寄り向けの天神様など、聞いたことがない。

するとまた、ある若手が「天神さんは学業の神様だから頭が冴える。頭が冴えるイコール、ボケ封じ」という見事な3段論法を展開。それでもというか、当然というか、中村理事長、やや腰が引けてはいたが、ダメモトで天満宮の長谷川正矩宮司に当たってみたところ、軽く一蹴されると思いきや「分院を建てればいいですよ」との粋な答えが返ってきた。

そして市から話があって半年後の8月、天神縁日の25日を選んで「おかげ天神」が建立され、商店街を歩行者天国とする天神市も始まった。この企画は予想以上の人気で、毎月の縁日には、天神町商店街はお年寄りで大にぎわいすることとなったのである。

お年寄りにやさしい街づくりがもたらした「安全・安心な明るい町」

天神町商店街ではこのほかにも、いくつかの面白い試みをしている。一つは空き店舗を、お年寄りたちに無料開放することだった。病院の待合室にお年寄りが集うように、商店街の中にお年寄りのたまり場を作ろうと考えたのだ。

これは当時の宮岡寿雄市長の鶴の一声もあり、市の福祉課が2店舗を改装してくれ、ふれあいプラザ「まめな館」と、交流館「いっぷく亭」として商店街にデビューした。施設には老人ボランティアが詰め、いつでも話し相手や湯茶の接待が出来る態勢も整えた。

やがて、こうした街づくりを進めるうち、お年寄りの口コミでどんどん輪が広がり、お年寄りがお年寄りを呼ぶ現象が起きてきた。その上、お年寄りの側にも、街づくりへの参加意識が感じられるようにさえなってきた。

また高齢者にかかわっていた団体や学生が、天神市に参加し始め、更には街づくりにも興味を持つようになった。2000年には島根大学法文学部ゼミが空き店舗を利用して「おかげ庵」をオープンさせ、商店街でフィールドワークを始めた。学生たちは街の集まりにも参加、若い人たちの意見が街づくりにも反映され、市に対しても学生からアイデアが出されるようになった。

その後も松江市環境課のエコショップとエコ新聞編集局、障害者授産施設

のパン工房や食堂などが次々とオープン。商店街の中心部には1階が病院と薬局、2階、3階が高齢者専用住宅という「安心安全ハウス」も建設された。
　それに歩調を合わせ、電線をアーケードの軒下に収納して電柱をなくし、歩道をバリアフリーにするなど、商店街自体もどんどん進化。空き店舗のシャッターが閉まり、どことなく暗いイメージが漂っていた商店街が、明るく変貌を遂げた。
　こうなると、「お年寄りにやさしい街づくり」を目指してきた松江天神町商店街は、「安全・安心な明るい町」というイメージが定着。今や毎月25日の天神市は、お年寄りばかりでなく、小さな子どもたちや親子連れでにぎわうようになっている。

松江市天神町の安心安全ハウス

効果的な処方箋を作って明るい高齢社会を

　中山間地の大豊町、そして地方都市の松江市。日本の多くの市や町が、両者と同じような問題を抱えているはずだ。実際、各地を取材していると、中心地や駅前がシャッター商店街と化している光景をよく見かける。耕作が放棄された田んぼや、下草が伸び放題の山も目にした。冒頭で触れたように、日本は超高齢社会に突入し、その流れが加速している。
　しかも、地域によって問題の所在はさまざまだ。当然、すべての市や町に共通する処方箋はない。が、山村の生活をウリに交流人口の拡大を目指す大豊町庵谷集落や、お年寄りにやさしい街づくりを進め活性化した松江天神町商店街など、成功例が多いのも事実だ。
　昨年10月、「なにくそ限界〜まちづくりフォーラム〜」が、兵庫県朝来町で開催され、大豊町の岩崎町長が基調講演をした。この「なにくそ」の心意気が大事だし、同じ悩みを抱える地域同士で情報交換し、ネットワークを構築することも必要だろう。商店街活性化については、中小企業庁が刊行した『がんばる商店街77選』に、松江天神町商店街を含む全国のさまざまな事例が紹介されている。
　座して高齢化の進行を眺めているだけでは、「明るい高齢社会の処方箋」は見えてこない。まずは、自分の地域をもう一度見つめ直すことから始めたい。そしてきちんとした診断をした上で、効果的な薬や用量、投与方法を処方する必要がある。
　さすれば高齢社会は決して恐ろしい社会ではない。限界集落、限界自治体だって、恐れる必要はないはずだ。

■取材協力／高知県・大豊ライオンズクラブ（秋山征男会長／12人）、島根県・松江ライオンズクラブ（横井誠二会長／85人）

共に生きる明るい長寿社会の実現を目指して

奈良県・橿原ライオンズクラブとシルバーネットワークかしはらの15年

橿原ライオンズクラブが「シルバーネットワークかしはら推進協議会（SNK）」を設立したのは1994年。この年、他に類を見ない速度で高齢化が進行する日本は、高齢化率14％を超えて「高齢社会」に入った。

翌95年に施行された「高齢社会対策基本法」の前文には、「今後、長寿をすべての国民が喜びの中で迎え、高齢者が安心して暮らすことのできる社会の形成が望まれる。そのような社会は、すべての国民が安心して暮らすことができる社会でもある」という一節がある。橿原ライオンズクラブが目指したのは、そんな明るい長寿社会を行政、民間が共に協力して実現することだ。

地域が必要とする活動を

奈良盆地の南の端にある橿原市は、日本で最初の都城・藤原京が造営された地だ。万葉集に歌われた大和三山は、かつてはのどかな田園風景の中にぽっかりと浮かんでいたが、近年はベッドタウンとして市街地化が進んだ。現在の人口は約12万5千人、奈良市に次ぐ県下第2の都市だ。

SNK設立は橿原ライオンズクラブ30周

秋空の下、周辺の史跡などを巡りながらウォーキングを楽しむふれあい健康ウォーク

年、橿原ライオネスクラブ15周年の記念事業で、両クラブがそれぞれ500万円、100万円の資金を拠出して立ち上げた。この30周年の節目を前に、橿原ライオンズクラブは組織の抜本的な見直しに取り組んでいた。マンネリズムを排し、運営面は出来るだけスリムに、事業は時代の変化に即したもの、より地域社会のニーズに合って市民の共感を得られるものにしようと、委員会編成を一新。新たに作られた委員会の一つが「長寿社会対策委員会」だった。

当時クラブ幹事を務めていたL森本全彦は、「少子高齢化は既に問題になっていたが、一般にはまだそれほど関心が高くなかった。クラブには時代を先取りした事業をしようという意識があった」と言う。

長寿社会対策委員会は記念事業委員会のメンバーとプロジェクト・チームを作り、高齢者の問題について勉強することから始動した。高齢者福祉に先進的な取り組みを行っていた広島県福山市の社会福祉協議会に赴いてノウハウを学び、また専門家を招いて勉強会を重ねた。そうした中から、行政と民間の各種団体が共通のテーブルについて情報を交換し、知恵を出し合う組織が必要だという結論に至った。

「高齢者の問題は幅広いが、行政は縦割りの組織だし、ボランティア団体は個々に動いてお互いの活動をよく知らない。機能的に活動するには行政と各種団体組織の横のつながりを作ることが必要だった」と、SNKの初代会長を務めたL八嶌隆（現335複合地区ガバナー協議会議長）は話す。

しかし当初、ネットワーク構想に対する反応は鈍かった。ライオンズに対する誤解もあり、関係団体から「補助金がもらえるのか?」と言われることもあった。ネットワークの必要性を根気よく説明し理解を求めた結果、自治員連合会、民生児童委員協議会、老人クラブ連合会、地域婦人団体連絡協議会、橿原市医師会の賛同を得、橿原ライオンズクラブ、橿原ライオネスクラブを加えた7団体でSNKを発足。その後、校園長OB会、奈良県看護協会、橿原ボランティア協議会、ホームヘルパー協議会が協力を申し出て現在は11団体となり、市長や市議会議長らが顧問を務める。活動の企画や運営はライオンズが担い、当初は資金面でもクラブが支えていたが、現在は市から年200万円の補助金を受け、クラブの拠出は50万円程になった。

毎年の代議員総会の他、2カ月に一度の役員会には警察と消防の担当課長も出席し、高齢者の生活や安全のため協力体制を敷いている。

地域で支える態勢づくり

一口に「高齢者」と言っても、そこに含まれる人たちの状況はさまざまでニーズも異なる。そこでSNKは事業を企画するに当たり、65歳以上の高齢者を三つのグループに大別した。健康でまだ現役で働くことの出来る人、健康に不安はあるが自身で生活が出来る人、人の手を借りないと生活が出来ない人の3グループだ。

まず最初に手掛けたのは、大多数を占める健康高齢者への対応だった。健康で元気な高齢者にとっては、経験や趣味を生かして社会参加することが生きがいにつながる。調べを進めると、

全国の10万人以上の都市の中で橿原市にだけシルバー人材センターがないことが分かった。97年4月に発足させた橿原シルバー人材センターは5年後、契約高2億円を超え、近畿有数の業績を挙げるまでに成長した。

続いて行ったのが地域の高齢者の実態調査だ。対象はモデル地区に選定した耳成小学校区に住む65歳以上の高齢者1051人。第1次調査は民政委員の協力を得て聞き取り調査、第2次調査では、第1次で判明した要介護者や独居高齢者を保健師や看護師が戸別訪問し、相談を受けながら調査した。その結果、多くの高齢者が健康不安と寂しさを抱えながらも引きこもりがちになっていること、また介護する家族が肉体的にも、精神的にも大きな負担を抱えていることが分かった。

これを受けて、高齢者を地域で支え合うミニネットワーク作りを呼び掛けた。民生児童委員連合会、老人クラブ連合、地域婦人団体連絡協議会などの協力を得て、まずは耳成地区でこれを発足。その他の地区にも広げていった。このミニネットワークは後に市の社会福祉協議会の管轄となったが、SNKが作った基盤を生かして現在までに市内16校区すべてに設立されている。これにより高齢者福祉に限らず、教育や安全などの問題でも地域ぐるみの取り組みが円滑に行われるようになった。

福祉行政の改善にも

これまで取り組んできた活動を挙げてみると、ニーズを的確に把握して対応していることが分かる。

先に触れた高齢者の実態調査で、電球の取り替えなど日常のちょっとした家事が出来ずにいる人たちが多かったことから、要請を受けて出動する高齢者世帯の「助っ人隊」を発足。その移動用として橿原ライオンズクラブが小型バンを寄贈した。この助っ人隊の活動は現在、市のボランティア協議会に引き継がれている。

毎年秋、千人もの市民が参加する「世代間交流ふれあい健康ウォーク」は、核家族化により世代間の結びつきが薄れる中、親と子、孫が共に参加し、高齢者の健康維持にもつなげようと企画し、昨年で第12回を数えた。

また、99年にはホームヘルパー養成研修を開講。翌年に控えた介護保険制度の施行を前に、人出不足が予測されるホームヘルパー有資格者を育成するのが目的で、この年、30人がホームヘルパー2級の修了証書を手にした。研修は7年間続き、合計205人が修了。その後は市内の需要が満たされたことを理由に中断していたが、昨今の介護、雇用の情勢から、講座の再開を検討しているところだ。

SNKはこれら事業を行うだけでなく、福祉行政の充実に大きな影響を及ぼしてきた。以前は職員数3人で十分な機能を果たせていなかった社会福祉協議会は、30人の組織態勢となり、SNKも事務局をその一角に置いて協力し合っている。また、市の保健、医療、福祉の窓口が異なるのは高齢の利用者に不便だと「ワンドアシステム」を提唱したことで、窓口サービスの改善につながった。

L八嶌は「明るい長寿社会では『公助』『共助』『自助』がバランスよく働くことが重要」だと言う。15年にわたる歩みで、ライオンズとSNKは橿原にその基礎を築き上げた。

（取材／河村智子）

写真上／毎年7月の代議員総会は第2部に講演会やアトラクションがあり、大勢の市民で大盛況となる。中／ミニ・ネットワークの「介護の集い」。下／シルバー人材センターの講習風景

お年寄りたちが健康で楽しく暮らせるように

神奈川県の西南部に位置する二宮町。南は相模湾に面し、海水浴や地引き網、海釣りといったレジャーと、新鮮な海の幸が楽しめる。北部は大磯丘陵と呼ばれるゆるやかな丘陵が深い緑をたたえて東西に延び、名産のみかん、しいたけや落花生も栽培される。二宮は温暖な気候と四季を通じて満喫出来る豊かな自然環境に恵まれて、古くから「長寿の里」として知られてきた。

二宮ライオンズクラブがこの町に誕生したのは1967年のこと。日本社会が科学技術の発展と経済成長を第一に掲げて邁進していた頃である。時が流れバブル崩壊、そして不況の時代を迎えた。時代が変化を遂げる中で、二宮ライオンズクラブは人の暮らしに主眼を置いてアクティビティを実施してきた。中でも40年以上の歴史を誇るのが「おばあちゃん大学」である。

「クラブ結成の年から続く事業です。長寿の里・二宮にふさわしい活動は何だろうって考えたんですね。そこで、町のシンボルでもあるお年寄りたちに、いつまでも健康で、明るく楽しい日々を送ってもうためのアクティビティをしようということになりました。以来毎年、町のお年寄りを招いて開校しています」

と、柳川幸司会長は語る。

長寿の里でおばあちゃん大学開校

神奈川県・二宮ライオンズクラブ

大学のメニューは趣向を凝らす

おばあちゃん大学は毎年春に開校する。2部構成で、第1部は医師やヘルスケアの専門家による健康講座、第2部ではさまざまなアトラクションが用意される。

講義の一環したテーマは「健康」であるが、分野は年ごとに異なり多岐にわたる。呼吸器内科の医師による「呼吸器の健康管理と肺がんについて」、歯科医による「高齢者の歯の健康」、「がん診断の最前線」、「日常診療の中から」など、それぞれの最新情報や、ここ数年は二宮地域包括支援センター保健師が、「認知症予防」や「口から始まる介護予防」など、高齢者の生活におけるアドバイスを

している。時には話が難しくなっても、学生気分が味わえて若返るよう。総じて先生方がかみ砕いて話をしてくれるので、「分かりやすくて、とてもためになった」と喜ばれている。

第2部は、第1部の頭の体操からガラッと趣を変えて、心と体を開放して楽しむ時間。地元の高校生のお芝居や、中学校コーラス部による「なつかしのメロディ」、吹奏楽部の演奏が披露されたり、地域の子どもたちとの交流が図られる。学校の定期テストなどにぶつかる時は、大正琴の演奏や南京玉すだれ、歌手による歌謡ショーなどのアトラクションが用意され、歌手とのデュエットに興じることもある。更には、お年寄りが主役の大カラオケ大会が繰り広げられるのだ。

05年の企画は例年と少し違った。児童文学「ガラスのうさぎ」をご存知だろうか。著者・高木敏子氏は戦中、二宮に疎開しており、その戦争体験が土台となった物語である。この作品のアニメーションが作成され、舞台となった二宮の地のおばあちゃん大学で、全国上映に先立って特別試写会が行われたのである。会場を埋め尽くした参加者は自らの体験と重ね、ハンカチで涙をぬぐった。

「今年はいつ？」の声に応えて

多くの人に気軽に参加してもらおうと、おばあちゃん大学の学費は無料である。毎年300～400人が入校する。大学の人気はその内容はもちろん、これだけ大勢の友人に会える機会が他にはなく、それも大変喜ばれているのだという。クラブは事業を長く続けていくために、無理のない運営を心掛けている。

まず会場は、廉価で借りられる町営の生涯学習センター、ラディアンのホールを使用。ここが飲食禁止ということもあり、開始時間は昼過ぎからに設定して弁当は無し、お茶とお菓子をお土産に付けている。講師やエンターテイナーの依頼も出来るだけ出費が抑えられるよう、周辺クラブや地域から情報を収集する。

開校の広報は社会福祉協議会を通じて行われるが、既に時期になると「今年はいつやるの？　出し物は何？」という問い合わせが入るくらいに浸透していて、参加者を集める手間は不要。手続き、準備も慣れたもの。事業の成否を計るのはいかに参加者が楽しんでくれるかで、掛けたお金や会員の苦労の度合いではない。

ところで、「おばあちゃん大学」という命名。健康講座やお年寄りが楽しめる余興を企画するクラブは他にもあるが、興味を引くネーミングの妙である。

「実は何のひねりも無いんですが……。開始当所は女性組織の老人会に声を掛けたので招待客全員がおばあちゃんだったんです。『大学』というのは、東海大学医学部付属大磯病院の教授に講師を依頼したからです」

と、柳川会長が種明かししてくれた。

（取材／柳瀬祐子）

30年を超えて続く 夏と冬の高齢者支援アクティビティ

北海道・岩見沢中央ライオンズクラブ

岩見沢市は道西部に広がる石狩平野の東部に位置する。アイヌ語の地名が多い北海道では珍しく和名を持つ都市である。明治11年、幌内煤田開発のために、開拓使は札幌～幌内間の道路開削を進め、多くの人々が働いた。彼らが市の北部を流れる幾春別川の川辺に休泊所を設けて湯浴みをし、疲れを癒やしたことから、「ゆあみさわ」と呼ばれるようになり、岩見沢に転化したと言われている。

岩見沢中央ライオンズクラブは1972年、岩見沢ライオンズクラブのスポンサーで誕生。結成直後から活動は活発だった。その中に30年以上にわたり続けている高齢者福祉アクティビティが二つある。

パワー全開のシニア交流会

一つは結成2年後の74年度から続く夏のアクティビティ、「シニア交流会」への協力。これは岩見沢市社会福祉協議会が主催する、市内の高齢者による大運動会である。以前はこのイベント、「老人オリンピック」

と呼ばれていた。しかし「老人」という言葉の響きに抵抗があるということで、後に改名されたものだ。

クラブは当時、3世代交流が出来るアクティビティを模索していた。そこでシニア交流会に協力して更に盛り上げ、がんばるおじいちゃん、おばあちゃんを子どもや孫に応援してもらおうということになった。運営の手伝いの他、トロフィーや盾、景品等、選手に授与する品々とゼッケンを提供している。

シニア交流会では選手と家族、応援団ら約2千人が一同に会し、町対抗でスピード・技・チームワーク

を競い合う。市内スポーツセンターの体育館で、朝8時30分に競技開始。ラジオ体操で体をほぐしながら、闘志に火をともし、午前中の競技で大盛り上がりのまま昼食をはさみ、大会は2時〜3時まで続く。

多少お歳を重ねているからといってあなどるなかれ。競技はスプーンにピンポン球を乗せての玉運び、ボールの的当てなど、誰でも参加出来るものだが、選手たちはこの日のために日々練習を重ねており、真剣勝負。迫力の対決が繰り広げられるのだ。ライオンズクラブの役割の一つにゴール地点での審判があるが、ジャッジを間違えようものなら大変だ。矢のようなクレームにさらされかねない。それを恐れるならば、目を皿のようにして一瞬たりとも見逃さぬようにしなくてはいけない。

かつては8月に開催されていたのだが、北海道とはいえ外気の暑さと参加者の熱気で館内は危険なほどの温度上昇。安全のために開催日を7月に移動した。

松浦淳一会長は言う。

「皆さん本当に元気で、童心に帰って真剣に競っていらっしゃいます。お手伝いしている我々の方が逆にパワーをもらうんですよ」

町ぐるみの助け合い 独居老人宅の雪かき

岩見沢は道内でも有数の豪雪地帯である。今年こそ暖冬で雪が少なかったものの、ひと冬の降雪量の累計が8㍍に達する年もある。岩見沢中央ライオンズクラブのもう一つの高齢者のためのアクティビティは、独居老人宅の雪かき。こちらは76年度からの継続事業である。

岩見沢では、一晩で80〜90㌢も雪が降り積もり、扉は開かない、窓も覆って陽が差さないという状態になってしまうこともある。道路から少し引っ込んだ家などは、道に出るまでの雪道を付けるだけでも一仕事である。そんな中でお年寄りが一人で家に閉じ込められてしまったら、どんなに不便で心細いだろう。

かつては2世代、3世代が共に暮らし、雪かきが出来る家族がいることが多かった。まれに一人で暮らすお年寄りがいても、近所の人が気に掛けて手伝ってやれば良かった。それが次第に独居老人が増えて、それでは間に合わなくなった。市が支援の必要な世帯を把握し、ボランティアを募って雪かきのコーディネートをするようになった。岩見沢中央ライオンズクラブもこれに登録。他に、町内会や市民団体、個人でも参加している。

岩見沢中央ライオンズクラブの出動は日曜日、年に1、2回。会員約30人が指定の家々に向かう。スコップや、ママさんダンプと呼ばれるソリに取っ手を付けたような形状の除雪道具で屋根の雪を下ろし、家の周囲の雪をどかし、お年寄りが歩きやすいように、または車いすでも通れるように雪道を作る。時には小型ショベルカーも使う。

「作業が終わると、お年寄りが拝むように手を合わせてね、お茶とかお菓子をどうぞどうぞって勧めてくれるんです。やって良かったってうれしくなって、またがんばろうと思います」と南部谷靖幹事。

きっと雪かきに携わるボランティアは皆、同じような気持ちを味わうだろう。お年寄りへの支援を通じて、地域の中に共に助け合う心が育っているのかもしれない。

ミネアポリス国際大会 最新情報

2009年7月6日（月）～10日（金）

年に一度、世界のライオンズが集う国際大会。
間近に迫ったミネアポリス国際大会の
主な行事とトピックを紹介

＊大会プログラムは変更される場合があります。現地で最新情報をご確認ください

■会場

公式プログラムの会場は、ミネアポリス・コンベンション・センター。市街地にあるたいへん便利な会場だ。展示ホールの国際本部ブースは従来より拡張され、本部スタッフが参加者をサポートする。協会のブランド・リニューアル計画に伴って展示ホールのデザインが一新されるのでお楽しみに。

■総会

第1回総会（開会式／8日9時半～）のハイライトは、コリン・パウエル元アメリカ国防長官による基調講演。ブランデル国際会長が今年度を総括し、205の国と地域の旗が揃うフラッグ・セレモニーは壮観。第2回総会（9日9時～）では、国際第2副会長候補者、国際理事候補者の指名。第3回総会（閉会式／10日9時半～）で人道主義大賞の表彰、新国際会長、地区ガバナーの就任式が行われる。

■パレード

恒例のインターナショナル・パレードは7日10時にスタート。ミネアポリス中心部を縦断するニコレット・モールを行進する予定。

■インターナショナル・ショー

今年の出演者は60年代を代表するロック・バンド、ビーチ・ボーイズ。「ココモ」「サーフィンUSA」などの

ミネアポリス案内

ミネアポリスはあまり馴染みのない都市だが、全米で最も住みたい街の一つに数えられるだけあって、さまざまな魅力を持ち合わせている。

●愛称

ツイン・シティー：州内最大の都市ミネアポリスと、州都セントポールが隣接することからこう呼ばれる。

シティー・オブ・レイクス（湖の街）：ミネソタ川とミシシッピ川が合流する地点にあたり、市域内には20もの湖があって水が豊富。

ミル・シティー（製粉の町）：かつては世界の小麦製粉の中心地として発展した。歴史ある製粉所跡を再生した博物館がある。

●交通

次世代型路面電車と呼ばれる「ライトレール」が2005年に開通し、ミネアポリス・セントポール国際空港とミネアポリスのダウンタウンの間を23分で結んでいる。平日のラッシュアワー以外は1ドル50セントで2時間半乗り降り自由なので、観光にもたいへん便利。

冬期は最高気温が氷点下という厳しい寒さに見舞われるミネアポリスには、どんな天候でも快適に街中を移動出来る「スカイウェイ」システムがある。オフィスビルに銀行、ホテル、デパート、コンサートホールなど、ダウンタウンをほぼ網羅する80ブロックのビルを結び、総延長11キロに及ぶガラス張りの高架歩道はこの町の名物でもある。

●ショッピング

アメリカの旅行誌の調べで、ミネ

軽快なサウンドは、ブランデル国際会長の大のお気に入りだ。7日18時半〜。入場チケットは大会登録に含まれる。

■**ヒーロー賞晩餐会**

会員増強やリーダーシップなどの部門で大いに活躍した「ヒーロー」を表彰する晩餐会。チケット（120ドル）は大会サービス・センターで購入出来る。

■**MJF昼食会**

メルビン・ジョーンズ・フェロー（MJF）のための特別昼食会。8日13〜15時。チケット（50ドル）は大会サービス・センターで購入出来る。

■**セミナー**

大会の会期中はさまざまなテーマでセミナーが開催される。いずれも英語でのセミナーだが、関心がある方はぜひご参加を。ここに挙げるのはほんの一部なので、詳しくは大会プログラムで確認されたい。

●ライオンズクエスト入門（7日15時半〜16時半）プログラムがいかに青少年に良い効果をもたらすか、地域でのプログラム導入方法など

●2009年ゾーン・チェアパーソン・セミナー（8日13時半〜15時）任務の説明の他、クラブ活性化や地区のリーダーとしての役割について

●LCIFレセプション（8日14時半〜15時半）会期中に千ドル献金をした参加者にLCIF理事長からMJFまたは累進MJFのピンを贈呈

■**大リーグ・ライオンズ・ナイト**

8日の地元ミネソタ・ツインズとニューヨーク・ヤンキースの対戦試合は「ライオンズ・ナイト」。大会参加者は割引料金で観戦出来る。チケットは20〜29ドル（加えて手数料5ドル）で、そのうち3ドルがLCIFに献金される。チケット注文書式は国際協会公式サイトの国際大会のページで入手出来る。

●新型インフルエンザの流行に関して、国際協会大会部から以下の見解が出されています（5月14日付け）。

「国際協会では最近のH1Ni型インフルエンザの突発的流行に際し、米国疾病管理予防センター（CDC）の指導に従い対応しております。CDCによりますと旅行に関する制限や規制は行われておりません。WHOもまた、一般的な旅行の規制や国境の封鎖は必要ないとの指針を示しております。ライオンズクラブ国際協会は、世界中から参加されるライオンズのため、国際大会に当たって望まれる、最高レベルでの安全とサービスを提供するよう心掛けております」

アポリスはニューヨーク、サンフランシスコ、シカゴに次ぐベスト・ショッピングの街に選ばれている。その理由は、衣類と靴に消費税がかからないこと、そして全米最大規模の屋内ショッピング施設、モール・オブ・アメリカがあること、など。

ミネアポリスの南、ブルーミントンにあるモール・オブ・アメリカは、四つのデパートと人気ファッション・ブランドやインテリアなど250店舗以上の専門店が集まっている上、遊園地に水族館まである。ライトレールの駅があり、ダウンタウンから約30分とアクセスも便利。

ダウンタウンのショッピング街「ニコレットモール」には有名デパートやブランドショップだけでなく、アウトレットショップまで揃う。1967年に完成したこのモール、一般車両を排しバスなど公共交通機関だけが通行出来る歩行者専用の街路で、中心街の活性化を図る都市計画の先駆けとして知られる。

●**アート**

ミネアポリス美術館は印象派からローマ彫刻、アフリカ美術まで豊富なコレクションを誇り、ゴッホやピカソ、レンブラントなどの名作が鑑賞出来る。また3千点にも及ぶ浮世絵コレクションを所蔵し日本アート・ギャラリーも充実。しかも入館無料なのがうれしい。

世界的に高い評価を得ている近現代美術の美術館、ウォーカー・アート・センターやミネソタ大学内にあるワイズマン美術館は、著名な建築家による建物も有名。

●**シアター**

一人当たりの劇場数がニューヨークに次いで多いというミネアポリス。1920年代から劇場街として栄えたヘネピン・アベニューには、当時のままの美しい内装を誇るシアターもあり、ブロードウェイ作品などを上演。ミシシッピ河畔に建つガスリー・シアターは上演作品だけでなく、斬新でモダンな建築デザインでも注目を集めている。

■国際理事
杉本忠夫
（北海道・札幌ライラック）

老舗企業に見る伝統は革新の積み重ね

日本列島、春と申せば、桜花（ソメイヨシノ）の開花が桜前線と呼ばれ、約1カ月を掛けて日本列島を縦断します。私自身も九州、関西、関東、北海道と移動する先々で花見が出来る幸せは、今昔変わりないこの風情に、酒宴と共に酔いしれるものです。

さて、経済状況の見通しが不確実な中で、文明力、適応力、分相応をわきまえて成功を続けている老舗企業をご紹介したいと思います。皆さんは200年以上続く企業がどれくらいあるかご存知でしょうか。日本には、飛鳥時代から1500年も続く「金剛組」を筆頭に3100社が健在で、その数は何と世界全体の40％を占めます。ちなみにドイツには800社、オランダ200社、アメリカ14社、アジアではお隣り韓国はゼロ、中国9社、インド3社とのこと。

老舗企業が昭和の激動期を含め生き抜いてきた力は何なのか。それは文明力だと思います。例えば私たちが今、日常手放すことの出来ない携帯電話に、100年続く会社の技術が取り込まれています。代表的なものは、発信器の人工水晶、バイブレーターの極小ブラシ、ボディの電磁波シールド、液晶画面の鏡等では、明治時代創立の鉱山会社が活躍しているのです。このような技術開発はいずれも本業の延長線上にあります。これを生かすことで適応力が生まれてきます。つまり伝統と言えども革新の連続だということです。また、家訓の中には、分相応のわきまえを心得ることが極めて大切とされているそうです。私たちも努力して困難に立ち向かう姿勢が必要であることを知らされます。

今、アメリカ型の就労方法か、あるいは日本の老舗企業のような在り方が良いかは意見が分かれるかもしれませんが、新たなヒントを見いだして組織を運営するということに大きな意義を感じます。

さて次に、3月にニューヨークで開催された国際理事会について。前号で後藤理事がお書きになっている点は割愛し、決議事項についていくつか列記します。詳細は29ページの決議事項要約をご覧ください。

●国際大会に1日だけの参加者のために80ドルの登録料金を設けた
●100周年に当たる2017年の国際大会開催地は7年前に選定（通常は5年前）
●滞納金以外の理由で139クラブ（841人）の解散を承認
●地区ガバナー・エレクト（DGE）セミナーに参加するDGE配偶者の旅費支払いは500ドルを限度とする
●35クラブ、会員数1250人に満たない準地区の数を減らす地区再編案を理事会の3分の2の賛成票をもって承認出来るよう、09年国際大会に改正案を提出
●LCIFの一般基金と視力ファーストⅡの資金を別個に分ける
●理事会方針書に、LCIF複合地区及び地区コーディネーターの任命及び任期についての項目を加えた
●自主的な解散、合併、またライオンズ関連の問題で訴訟を起こすクラブを自動的に解散させることが出来るよう理事会方針書を改訂。業務の主観はクラブ行政部
●2010年から、DGEセミナー委員長職に資格条件を設置。年数の制限、母国語と英語の使用

NEWS CASSETTE

日本列島各地で今年度を締めくくる年次大会開催

今年の各地区年次大会は4月から6月にかけ、全国38の都市で開催されるが、その先陣を切って4月5日(日)、埼玉県熊谷市の立正大学熊谷キャンパスで330・C地区（星山春雄地区ガバナー）大会が開かれた。午前中の代議員会では地区ガバナー・エレクトの信任投票、及び第1副地区ガバナーの選任投票が行われ、前者に浦和東ライオンズクラブのライオン金子義人、後者に川口ライオンズクラブのライオン大野元裕が選ばれた。午後に行われた大会式典では星山ガバナーの年次報告、上田清司埼玉県知事（埼玉県・志木ライオンズクラブ）を始めとする来賓の祝辞などに続き、国際協会公認スピーカーとして後藤隆一国際理事が登壇。後藤理事は参加者に、10年後、20年後にもライオンズクラブが続いていくためには、メンバーシップとリーダーシップが重要になる、と語りかけた（写真）。

年次大会は週末に行われることが多く、ゴールデン・ウィークの5月第1週を飛ばして、6月第1週の週末まで、各週末に地区、複合地区の年次大会が開催される。

国際第2副会長候補者

Dr.ウィンクン・タム（中国・香港）

1981年からマウント・キャメロン・ライオンズクラブ会員。03～05年国際理事。98～01年度、05年度の5回にわたり国際理事会アポインティーを務めた。

国際本部に世界の奉仕組織のリーダーが集結

今年1月、国際本部で二つの重要なフォーラムが開催された。ライオンズとLCIFのパートナーとして共に活動しているWHO、ユニセフなどの組織や、共通の目的を持つ団体のリーダーが集った視力パートナー・フォーラム、青少年パートナー・フォーラムだ。ブランデル国際会長の招請でそれぞれの分野の専門家や指導者ら50人以上が参加、意見交換や活動事例の紹介を行い交流を図った。ライオンズにとっては、豊富な資源と経験を持つ組織との結びつきを深める機会となった。

視力パートナー・フォーラムでは、視力ファースト・プログラムの今後の方向性、世界的あるいは地域的な失明防止の優先課題、熱帯病の根絶などをテーマにパネリストから発表があった。全米眼科協会

公式通達
2009年国際大会（アメリカ・ミネソタ州ミネアポリス）

以下の国際付則に関する改正案が2009年国際大会において提出され、代議員の票決を受けます。

第1項：地区再編成において地区にこれまでよりも柔軟性を与え、地区再編成案が複合地区内の準地区数を減少させるものである場合には、35未満のクラブ及び1,250人未満の会員から成る予定準地区が含まれている地区再編成案を考慮する権限を国際理事会に与える決議案

下記の決議案を承認すべきか？

国際付則第8条第3項の第2段落の最初の文を全文削除し、以下と差し替えることにより改正する。

各地区再編成案は、各予定準地区が少なくとも35のライオンズクラブおよび合計1,250人以上のグッドスタンディングの会員を有することを条件に、国際理事会によって考慮される。ただし、複合地区内の準地区数を減少させる場合はこの限りではない。

第2項：国際会長の所属クラブが存在する会則地域以外のクラブの中から任命されなければならない理事会アポインティの規定数を削減するとの決議案

下記の決議案を承認すべきか？

国際付則第4条第5項の最後の文に「二人」とある文言を削除し、「一人」との文言に差し替えることにより改正する。

ライオンズクラブ国際協会
第92回国際大会
公示

国際付則第6条2項の規定に基づき、私はここに2009年国際大会の開催を公示致します。第92回国際大会は7月6日から10日までアメリカ・ミネソタ州ミネアポリスで開催されます。

ミネアポリスは友好的で親しみやすい雰囲気の都市で、最高の文化や食事、ショッピングが満喫出来る場所です。

大会会期中、ライオンズは同輩との交友を楽しみ、有意義で示唆に富むセミナーに参加することでしょう。そして新国際会長の就任式やコリン・パウエル元国務長官による基調講演、人気の高いフラッグ・セレモニー、人道主義大賞の表彰式、そしてビーチ・ボーイズによるショーや華やかなパレードを始めとするエンターテインメントも体験します。

5複合地区のライオンズは来訪者を歓迎し、その滞在が楽しく、生産的で、快適なものとなることを確約しています。私は皆さんと共に私の会長テーマ「奉仕で奇跡を」によって成し遂げた進歩を振り返ることを光栄に思います。

2009年5月12日
アメリカ・イリノイ州
オークブルックにて

Al Brandel

ライオンズクラブ国際協会
国際会長　アルバート・ブランデル

の代表は、「重要な方策の一つは我々が力を合わせ、最前線で失明と戦うライオンズが地域で成功を収めるために必要な資材や援助を提供し支援することです。そうすれば変化は現実のものとなるでしょう」と話した。

青少年フォーラムでは、奉仕精神の涵養と薬物乱用防止をキー・トピックに意見を交換。この二つを併せ持つ事例の一つがライオンズクエスト・プログラムだ。米州薬物乱用管理委員会の代表は、「ライフスキル・プログラムの成功には、青少年が自らの行動規範となり積極性を示すロールモデルを持つことや、学校である程度の長期間にわたり教師と共に取り組むことが必要。ライオンズクエスト・プログラムはそれらの要素を満たしている」と述べた。

フォーラムに出席したジミー・カーター元アメリカ大統領は次のように語っている。

「ライオンズは私の人生を変えました。ライオンズの会員でなかったら、ジョージア州知事になる意欲を持つことも、アメリカ大統領になる夢を抱くこともなかったでしょう。私の何よりの喜びは、アフリカや南米の小さな村を訪れ、苦しい生活を送る人たちに会い、彼らから失明の危機が去ったと知ることです」

『ライオン』誌版 ライオンズ検定

●第12回・最終回

〈第1問〉国際理事会は年に何回開催される？

a 3
b 4
c 5

〈第2問〉『ライオン』誌日本語版は1年間に何回発行される？

a 6
b 10
c 12

〈第3問〉09年度、日本の準地区は一つ増加。いくつになる？

a 30
b 33
c 35

〈第4問〉ライオンズクエスト・プログラムを実施している国は何カ国？

a 50
b 60
c 70

〈第5問〉ミネアポリス国際大会で就任予定のヴィルフス新国際会長は第何代目？

a 90
b 92
c 94

〈第6問〉ライオンズ国または地域の数。

a 201
b 203
c 205

〈第7問〉過去20年間でライオンズ国際平和ポスター・コンテストに参加した子どもたちの数。

a 300万
b 400万
c 500万

〈第8問〉1989年にスタートした視力ファースト事業によって白内障手術を受けた人の数。

a 550万
b 650万
c 750万

★正解7問以上でA級、4～6問でB級、3問以下はC級に認定します。

★正解は27ジーに掲載。

332・C地区ライオンズ若手会員フォーラム開催

4月11日、宮城県塩釜市のマリンゲート塩釜で「332・C地区ライオンズ若手会員フォーラム」が開催された。ライオン誌日本語版委員会が主催した若手会員フォーラムに参加し、若手の士気向上を実感した志賀重信地区ガバナーの提案で実現した。地区内13クラブから38人が参加し、ライオン誌のフォーラムと同様に「新たなアクティビティの可能性」と「豊かなライオンズ・ライフ」のテーマでグルー

プ・ディスカッションを行い、その後懇親会を開いた。参加者は慣れないこともあり、初めは難しい顔で意見を出していたが、討議の合間に行った席換えゲームで打ち解け合い、有意義な時間を共有した。「活発な討議となるか不安もありましたが、全員に参加して良かったと言って頂けたのは非常にうれしいことでした。ガバナーは『若手会員の育成や交流が会員増強や今後のライオンズを支えることになる』と話しており、その目的は十分果たせたと思っております」と、志賀ガバナーと共にライオン誌主催フォーラムに参加し、今回の司会進行を務めたキャビネット副幹事のL佐藤靖記は話す。志賀ガバナーはこのフォーラムが単発で終わらないよう、次期キャビネットにも開催を促すことにしている。

会議録

第5回複合地区国際大会委員長連絡会議（3月18日／日本ライオンズ連絡事務所／出席者：神田信男、古谷野環、佐々木貞夫、糸井久夫、滝澤巌、奥村啓二、三谷智省、瀧榮司各委員長、栢森新治国際理事、不老安正国際理事候補者、増田十郎国際理事候補者支援委員会委員長、小田邦雄議長）

①第92回国際大会(A)大会登録及び代議員登録(B)パレード関係(C)日本ライオンズ代議員会・ジャパンレセプション(D)DGEセミナー関係②第48回東洋・東南アジア・フォーラム（タイ・パタヤ）

第8回複合地区ガバナー協議会議長連絡会議（3月30日／日本ライオンズ連絡事務所／出席者：大熊泰雄、齊藤實、阿部幸一、矢口武克、八嶌隆、小田邦雄、百田勝彦各議長、清水英徳副議長、後藤隆一、栢森新治、杉本忠夫各国際理事）

①前回議事要録の確認と議事録署名人による署名②本日の議案確認（緊急議案の有無）③春季国際理事会報告④eMMRシステムの導入について（ライオン誌日本語版委員会）⑤GMTリーダーからの報告事項⑥国際会長公式訪問（西）報告⑦（議長連絡会議）諮問委員会の報告⑧331複合地区からの提案⑨332複合地区からの提案⑩パタヤ・フォーラム第1回ステアリング委員会報告⑪各種連絡会議・委員会報告⑫その他

第9回ライオン誌日本語版委員会（4月3日／ライオン誌日本語版事務所／出席者：渡邊豊隆、瀧澤嘉門、坂本和彦、坂井正、小岱義正、大島康男、山根健、塩倉安伸各委員、小柴登司ITアドバイザー）

①4月号（11万3200部発行）出来②5月号記事内容の確認③6月号以降台割（案）と主要記事予定④ウェブサイト関連⑤ライオン誌日本語版事務所運営状況⑥その他

第4回複合地区YE委員長連絡会議（4月16日／日本ライオンズ連絡事務所／出席者：後藤忍、佐藤和幸、飯塚信一、西村積善、松田毅、松本正福、志岐好春各委員長、渡邊千秋副委員長）

①夏期交換②YE書籍について③次年度への申し送りについて

新結成クラブ

大阪府・東大阪D・S（吉田直樹会長）▼3月10日結成▼スポンサー／東大阪菊水、大東

愛知菜の花（田中靖代会長）▼3月24日結成▼スポンサー／豊橋南

広島県・府中びんごシニア（高橋健会長）3月24日結成▼スポンサー／府中中央

訃報

■元国際役員

L嘉悦康人（東京センチュリー）
3月27日死去、92歳。62年入会。78年度330・A地区ガバナー。第64回国際大会で81～83年国際理事に就任。

L鈴木康王（神奈川県・川崎臨海）
3月27日死去、70歳。99年度330・B地区ガバナー。

L石田克久（三重県・四日市みなと）

LIONS ON LOCATION

世界で奉仕するライオンズ（『ライオン』誌本部版より）

トルコ・イスタンブール

視力の旅800キロ

　トルコの首都イスタンブールにあるアメリカン・スクール、ロバート・カレッジの生徒は覚えが早い。彼らは数日間の研修で基本的なアイヘルス・ケアを習得し、貧困地域で無料眼科検査を行っている。

　2008年に結成されたロバート・カレッジ・レオクラブは視力ファースト・プログラムに意欲を燃やしている。彼らは検査のため、イスタンブールから800キロ以上離れた町へ出掛けていった。ここには迫害を受けた民族が暮らす。レオたちは大勢の貧しい人々や高齢者の検査を実施。アイヘルスへの意識を高めると共に、必要な人々への白内障手術を実施するためのスポンサーまで見つけ出した。「このプロジェクトの成功は広く知れ渡っています」と、同レオクラブ顧問のライオンタリン・ウネル。

　レオたちの仕事は検査だけではない。子どもたちに本やおもちゃを届け、一緒に遊んで楽しい一時を過ごす。「この事業ではアイヘルスだけでなく、異なるコミュニティーが助け合う異文化間の交流が非常に重要な要素となっています。それこそライオンズの奉仕の精神です」とライオンウネルは話している。

4月9日死去、84歳。82年度334‐B地区ガバナー。

■献眼者

1月＝ライオン熊本泰幸（長崎県・島原）　3月＝ライオン木村寿和（北海道・余市）／ライオン望月幹夫（静岡県・富士宮）

国際大会開催予定

2009年：アメリカ・ミネアポリス／7月6日～10日
10年：オーストラリア・シドニー／6月28日～7月2日
11年：アメリカ・シアトル／7月4日～8日
12年：韓国・釜山／6月22日～26日
13年：ドイツ・ハンブルグ／7月5日～9日
14年：カナダ・トロント

ライオンズ検定●第12回の回答

第1問・b／第2問・c／第3問・c／第4問・a／第5問・b／第6問・c／第7問・b／第8問・c

●解説を『ライオン』誌ウェブマガジン（www.thelion-mag.jp）の「今月のライオン誌」コーナーに掲載中

同伴する配偶者の旅費は、配偶者が予定されているライオンズクラブ国際協会の催し物及び行事に出席する場合に、監査規定に従って払い戻される。配偶者が予定されている催し物や行事に出席しなかった場合には払い戻しは行われない。

5. 理事会方針及び執行役員旅行経費支払いに関する方針を改訂し、単一地区または複合地区（その全準地区を含む）は年間1人の執行役員を招請出来るようにした。特別な事情があり、1人を超える執行役員の訪問が必要とされる場合には、国際会長の承認があれば許可されることもある。この方針はフォーラム、研修プログラム、計画会議といった国際協会のプログラムまたは取り組みのために開催される行事への出席に対して、あるいは国際協会の運営にかかわるその他の旅行に対しては適用されない。
6. 公認スピーカーの全体的な責任及び目的を明確にするため、理事会方針変更を承認した。公認スピーカーの講演を聴くことから会議出席者が著しいメリットを確実に得られるようにするため、公認スピーカーの主な目的は、会員増強を奨励することと、会議出席者にとって関連性がある、とりわけ最近の国際協会プログラム、方針、そして実績（LCIFとその各種プログラム及び使命に対する達成状況なども含む）を宣伝し、意識を高めることとする。スピーカーには、会議を主催する現地のクラブ及び地区にメリットをもたらす可能性がある、あるいは改善または意欲喚起につながる方法で、そのような話題について話をすることが奨励される。スピーカーが協会とは関係のないことについて講演した場合には、旅費の払い戻し及び（または）今後のスピーカー任務が承認されないこともあり得る。
7. 理事会方針書の理事会委員会に関する章に変更を加え、納税申告に先立ち、協会の990納税申告書の内容を見直すことを財務及び本部運営委員会の責任とすることを承認した。

■LCIF執行委員会

1. 視力ファーストⅡ資金をその帳簿価格で、LCIFの一般基金とは別にすることを承認した。
2. LCIFの投資方針声明文を改正し、視力ファーストⅡと一般基金の資金が別々に分けられ、その資産配分が変更されたことを反映させた。
3. 人道主義（用途無指定）交付金支出方針を変更し、資産価値と用途無指定寄付額の算出に5年平均を用いることにした。
4. 44件（総額1,632,933ドル）の一般援助交付金、国際援助交付金、四大交付金を承認した。

5. 合計5件の交付金申請を継続審議事項とした。
6. 3件の交付金申請を否認した。
7. ケニヤのナイロビにあるライオンズHIV／AIDS児童総合医療クリニックを支援するため、57,890ドルの四大理事会指定交付金を承認した。
8. 理事会方針書に、LCIF複合地区コーディネーター及び地区コーディネーターの任命及び任期に関する新しい項目を加えた。
9. 人道主義（用途無指定）援助交付金支出方針について、理事会方針書のLCIFの章を更新した。
10. ブラジルで発生した洪水災害に対して10万ドルの大災害援助交付金を承認した。

■リーダーシップ委員会

1. 2010年地区ガバナー・エレクト・セミナーより有効となる、地区ガバナー・エレクト・セミナー委員長職の資格条件を設けた。
2. ライオンが地区ガバナー・エレクト・セミナーのグループ・リーダーを連続して務めることが出来る年数制限を含む、グループ・リーダー職の資格条件を設けた。この条件は2010年地区ガバナー・エレクト・セミナーより有効となる。
3. 地区ガバナー・エレクト・セミナーの開催日数を1日短縮し、それに合わせてグループ・リーダーに対する経費支払いを調整した。グループ・リーダー配偶者の旅費支払いに関する新たな方針を設け、その額は500ドルを超えないものと定めた。

■長期計画委員会

1. 中国関係調整委員会の新たな2段階構造承認の決議を採択した。一つ目の段階は3人から4人のライオンで構成される執行運営委員会で、毎年その年度の国際協会会長が職権上のメンバーとなる。二つ目の段階は調整委員会であり、そのメンバーは (1) 中国本土、 (2) 中国･香港及び

（→30ページに続く）

国際理事会の決議事項要約

アメリカ·ニューヨーク州ニューヨーク
2009年3月9日～14日

1. カナダのオンタリオ州トロントを2014年国際大会開催地として選定した。

■監査委員会

1. 入金処理プロセスについて報告を受け、検討を行った。

■会則及び付則委員会

1. 国際付則第8条第3項の第2段落の最初の文を削除し、以下と差し替えるという改正案を2009年国際大会に報告することを決議した。

   各地区再編成案は、各予定準地区が少なくとも35のライオンズクラブ及び合計1,250人以上のグッドスタンディングの会員を有することを条件に、国際理事会によって考慮される。ただし、複合地区内の準地区数を減少させる場合はこの限りではない。

■大会委員会

1. 2010年シドニー国際大会の所定の登録料金は変えないことを決定すると共に、大会に1日だけ参加する人のために80ドルの登録料金を設けた。
2. 投票権のある代議員及び投票権のない補欠代議員として資格証明を受けることを希望する大会参加者は、所定の登録料金を全額払わなければならないことを決定した。
3. 2010年シドニー大会に関しては、2010年5月28日を個人によるホテル予約キャンセル可能期限とすることを承認した。
4. 2017年国際大会開催地については、その開催に先立ち7年前に選定することを決定した。

■地区及びクラブ・サービス委員会

1. 滞納金以外の理由による139クラブ（会員数841人）の解散を承認した。
2. 322-E地区の11のクラブを、実存しないという理由でステータスクオ処分とした。
3. 14の各地域を担当するコーディネーター·ライオンの再任命を承認した。
4. 暫定地区及び空席のある地区のために、2009-10年度地区ガバナーの任命を承認した。
5. 35複合地区（フロリダ州）と324複合地区（インド）の地区再編成を承認した。
6. 理事会方針書第9章への改訂を承認した。この改訂により、地区ガバナー・エレクト・セミナー開催日数が1日短縮されると共に、航空便のスケジュールの関係上本来なら大会最終総会に出席出来ない地区ガバナー・エレクトのためには1泊の追加宿泊が認められるとする新たな経費支払いの方針が設定された。さらに地区ガバナー・エレクト・セミナーに参加する地区ガバナー・エレクト配偶者の旅費支払いは500ドルまでとする新しい方針も設定。また、暫定地区と、2年間にわたり35クラブ未満及び会員数1,250人未満の地区に関する手順を明確にするための改訂を加えた他、国際付則に対する関連の改正案が採択されることを条件に、地区の数を減らす地区再編成案については国際理事会が検討することが出来るよう、地区再編成の手順を改訂した。
7. 自主的に解散するクラブ、他のクラブと合併するクラブ、ライオンズにかかわる問題で訴訟を起こすクラブを自動的に解散させることが出来るよう、理事会方針書第5章のクラブ解散手順とその他の事務的処理事項を改訂した。
8. クラブ名変更にかかわる業務を地区及びクラブ行政部に移した。
9. 2009年国際大会で代議員に国際付則改正案を報告するにあたり、必要な文言の草案を会則及び付則委員会に要請した。この改正案は、複合地区内の準地区数を減少させる地区再編成案については、理事会が3分の2の賛成投票をもって、35クラブ及び1,250人の会員数に満たない地区再編成案を承認することが出来るようにするものである。

■財務及び本部運営委員会

1. 投資に対する帳簿上の純損失を主な原因とする赤字を反映した2008-09年度第3四半期収支予想を承認した。
2. 協会の一般資金積立金／支出方針を承認した。これは理事会方針書の財務の章に含まれる。
3. 元国際会長及び運営役員の座席クラスについて、理事会方針の変更を承認した。元会長にはビジネスクラスで飛行する権限が与えられ、往復の飛行時間が10時間を超える場合、運営役員はビジネスクラスを利用することが出来る。
4. 配偶者が旅行する際の責任と指針を示すべく、理事会方針及び執行役員旅行経費支払いに関する方針への改訂を承認した。スピーカー任務、理事会会議、または国際大会のために旅行する執行役員、国際理事、元国際会長、元国際理事、理事会アポインティー、公認スピーカーに

（→28ページから続く）

マカオ、そして (3) 300複合地区·台湾のそれぞれから各2人から3人のライオン、合わせて6人から9人のメンバーで構成されるものとなる。

両委員会ともメンバーの任期は3年間とし、空席の生じた場合及び（または）構成変更を要するような事情がある場合には、国際協会会長が新たな任命を行う権限を有する。

■会員増強委員会

1. 家族会員プログラムの下に新たなプログラムとしてライオン·カブ·プログラムを承認した。
2. グローバル会員増強チームの新たな構造導入及び予算事項を承認した。
3. 転籍会員及びグッドスタンディングで退会した再入会員の入会費免除の期間を6カ月から12カ月に延長することを承認した。
4. ライオンズの活動に参加しているが、会員となっていない352地区（エジプト）の個人に対しては2009年5月31日まで入会費を免除することを承認した。
5. 2008-09年度GMTリーダー及び2009-10年度GMTリーダーの監査規定を改訂した。

■PR委員会

1. 「ライオンズ·イン·サイト」を2009-10年度の試験的プログラムとして設けた。
2. ライオンズクラブ国際協会青少年世界音楽コンクールを2009-10年度の試験的プログラムとして設けた。
3. 2009-10年度の会長賞メダルの数を1,050個に、国際リーダーシップ·アワード·メダルの数を1,200個にそれぞれ増加した。
4. 「プロトコール（役職の順位）」に副地区ガバナーとある個所を第一副地区ガバナーと変えると共に、第二副地区ガバナー職を加えた。更に、***の付いた段落及び（d）項を削除した。

■奉仕事業委員会

1. ライオンズクラブ国際協会と糖尿病教育キャンプ協会との覚書を承認した。
2. 2009-10年度より有効となるレオ·リーダーシップ会議補助金プログラム導入を承認した。
3. 2007-08年度トップテン·ユースキャンプ及び交換委員長賞受賞者を選定した。
4. 以前に承認済みの地区及び複合地区視力委員長賞について理事会方針書に加えた。
5. 国際関係事業の実施を奨励するために地区レベルで任命されるライオンの役職を「地区国際協調委員長」から「地区国際関係委員長」と改め、複合地区レベルでの役職と整合させた。
6. 2009-10年度より地区及び複合地区国際関係委員長賞を設けることを承認した。
7. 即時発効となる地区及び複合地区レベルにおけるALERT委員長職の設置を承認した。
8. 2009-10年度より地区及び複合地区ALERT委員長賞を設けることを承認した。
9. 2009年7月1日を以って次の公認奉仕プログラム及び活動を廃止することとした。聴覚·視覚コミュニケーション援助及び補助機器、切手収集及び交換、世界平和デー、21世紀の若い大使賞プログラム。
10. 2009年7月1日より複合地区レベルのライオンズ児童奉仕委員長職を設けることを承認した。
11. 複合地区ライオンズ児童奉仕委員長賞の設置を承認した。
12. 2009年7月1日よりターンキー型ライオンズ児童優先プログラムを協会の公認奉仕プログラムとすることを承認した。
13. 2009年7月1日よりアルファ及びオメガ·レオクラブの会員に関して理事会方針を変更することとした。これにより次の通りに定義される。アルファ会員 - 12歳から18歳のレオクラブ会員、オメガ会員 - 18歳から30歳のレオクラブ会員。
14. レオ·ライオン諮問パネルに関して、適用しない推薦基準を削除した。
15. 協力同盟に関する理事会方針を改訂し、いかなる同盟もその関係と目的について一般人の意識を高めるための計画書を含み、ライオンズの指導的役割について明確に説明するとともに、国際協会の世界的なイメージを促進し、国際協会を適切な形で認識するものでなければならないことを明らかにした。加えて、ライオンズクラブ国際協会理事会の書面による許可がなければ、協会と同盟を結んでいるいかなる組織もライオンズクラブ、地区、あるいは複合地区に勧誘をしたり、接触をしたり、その他の方法で情報伝達をすることは認められない。

上記決議事項のいずれかに関する詳細は、国際協会公式ウェブサイト（www.lionsclubs.org）でご覧頂くか、国際本部（電話：630-571-5466）にお問い合わせください。

GMT 通信

334～337複合地区（西日本）担当
GMTリーダー
高田順一

今年度から3年間にわたって継続的に会員増強に取り組む「グローバル会員増強チーム(GMT)」。複合地区、地区とのチームワークで、会員増強の目標達成をサポートするGMTリーダー2人に、それぞれ隔月で、チームの動向や担当エリアの会員増強の成功事例などを伝えてもらう。

このGMT通信などを通じて皆様には既にご理解頂いていると存じますが、GMTはブランデル国際会長がヴィルフス第1副会長、スクラッグス第2副会長と協議し、最低3年間は継続するプログラムとして始まっています。1年目はマイク・バトラー委員長と41人のGMTリーダーが複合地区MERLチーム、地区ガバナーを支援し、MERL（メンバーシップ、エクステンション、リテンション、リーダーシップ）の目的達成に向かって活動しました。4月24日時点の資料によると、日本では458人の純増がなされています。

しかし例年、6月末に大量の退会者が出ますので、これからが正念場です。各クラブのリーダーの皆様にはクラブの総力を結集し、M、E、R、Lそれぞれの目標に取り組んで頂きますよう再度お願いを申し上げます。4月号当欄でご紹介した退会防止のためのワークショップ開催もぜひお願い致します。

4月29日、30日、国際本部のあるアメリカ・イリノイ州オークブルックでGMTミーティングが開催されました。今回の会議はヴィルフス第1副会長が任命した次年度のGMTメンバーを招集したものです。ヴィルフス第1副会長から「MOVE　TO　GROW」の国際会長テーマと次年度の運営方針が発表され、1年目の成果を検証し2年目を効果的に運営するために組織の一部変更がありました。

新体制では国際会長がGMT委員長、第1副会長が副委員長として直接GMTを率います。その下にGMT国際コーディネーターの役職が新設され、A・P・シン元国際理事（インド）が就任致します。また各会則地域の特性を考慮し、GMT会則地域リーダーが新たに任命されることになりました。他の会則地域は1人ずつですが、東洋・東南アジア地域（OSEAL）は文化、言語、地理的な違いが大きいことを考慮し3人が任命されました。後藤隆一国際理事、テー・サップ・リー元国際会長、ウィンクン・タム元国際理事です。再任された7人のGMTエリア・リーダー（韓国は新リーダー）は3人のGMT会則地域リーダーの監督の下で活動します。そして地区ガバナー・チーム（地区ガバナー、第1副地区ガバナー、第2副地区ガバナーで構成）という言葉が使われるようになりました。ヴィルフス第1副会長からはGMTエリア・リーダーと地区ガバナー・チームとが今年度に増して密接に連絡を取るよう指示がありました。

会則地域ごとに会員増強目標、新クラブ結成目標が協議され、OSEALは5千人、250クラブを目指すことに決定致しました。

私はこの度、ミネアポリス国際大会時に開催される地区ガバナー・エレクト(DGE)セミナーのグループ・リーダーを務めることになりました。グループ・リーダーとしてまたGMTリーダーとして、35人のDGEの皆様と目標達成のためにじっくりと協議する機会を頂きました。しっかりとした信頼の絆を結び、次年度のスタートを切りたいと願っています。次年度も引き続き、ライオンズの発展に少しでも貢献出来るよう務めたいと存じます。どうぞよろしくお願い致します。

各種ラペルピン（襟章）

一般会員用

原寸 B-16（12mm）金メッキ

原寸 B-2-GF（15mm）10金張り

原寸 B-2-CH（15mm）金メッキ

原寸 B-2（15mm）金メッキ

原寸 B-12（6mm）金メッキ

原寸 B-4-CH（8mm）金メッキ

原寸 B-4-D（8mm）10金ダイヤ4個付

原寸 B-4（8mm）10金

原寸 B-4-GF（8mm）10金張り

原寸 G-426 10金張りダイヤ入り

原寸 G-149-B（10×12mm）金メッキ

原寸 B-17（6mm+タブ）金メッキ

原寸 B-8-GF（8mm）10金張り

国際協会では、メンバーであることや役職を示す、ラペルピン（襟章）を数多く提供しているが、その種類については意外と知られていないのではなかろうか？　そこで、国際協会から授与される襟章と、クラブ用品部で頒布している襟章を取りまとめてみた。

特に現職及び元役員用襟章は、各種大会等で出会った相手に礼を失しないためにも、ぜひ覚えておきたい知識だ。

一般会員用

国際協会では、新入会員用として金メッキのB・2を無償配布しているが、クラブ用品部では、それ以外に10金張り、10金、ダイヤ入り等、高品質な襟章や、各種サイズを用意しており、頒布単価も4・25ドルから214・95ドルまでさまざまである。詳しくは、国際協会日本事務所から毎年配布される、オフィシャルクラブサプライを参照されたい。

特に、不祝儀用の白金製B・8・GFはぜひ揃えておきたい襟章だし、25年在籍者用のG・426は、国際会長のサイン入り証明書付きの格調高い襟章である。また、会報編集者用のG・149・Bも珍しい襟章だろう。

クラブ役員用

クラブ役員用の襟章は、Lマークの

ライオンズクラブ国際協会

国際協会授与

元国際理事

副地区ガバナー

地区ガバナー

キャビネット会計

キャビネット幹事

ゾーン･チェアパーソン

リジョン･チェアパーソン

※上記の7種類のピン（金メッキ）は、各役職者に対し国際協会から授与されるものです

元地区役員

BJ-14-役職記号（15mm）
10金張り

BJ-14-役職記号J（15mm）
10金張りパール6個
ダイヤ2個付

BJ-7-役職記号J（15mm）
10金張りパール6個ダイヤ2個付

クラブ役員用

BJ-18-役職記号（12mm）
10金張り

BJ-1-役職記号（15mm）
10金張り

BJ-5役職記号J（15mm）
10金張りパール4個
ダイヤ2個付

BJ-5役職記号（15mm）
10金

BJ-6役職記号（15mm）
10金ダイヤ4個付

上に、各役職が表示されている。材質も、役員用にふさわしく10金張り以上で、頒布単価は材質に応じて、33・5ドルから395・95ドルである。

元地区役員用

これらの襟章は、次期地区ガバナーや役員から、前任の功績を称えて贈呈されることが多く、パールやダイヤ付きの格調高いものが用意されている。頒布単価は品質に応じて、55・5ドルから275・95ドルである。

（国際協会日本事務所所長／渡辺誠）

※一般会員用、クラブ役員用、元地区役員用に関する照会、注文は国際協会日本事務所へ
Tel：03・3494・2931
Fax：03・3494・2933
Eメール：lcijapan@amber.plala.or.jp

CLUB REPORT クラブ・リポート

●当欄はライオンズ、レオ、ライオネスの活動報告を扱います。投稿は住所、氏名、クラブ名を明記の上、800字程度で。関連写真があれば添付してください

香川県・丸亀ライオンズクラブ

新会員の登竜門・ハンドベル同好会

写真／田中勝明

4月4日、丸亀ライオンズクラブ（宮西義照会長／92人）は市の養護老人ホーム「亀寿園」を訪問し、花見をしながら、お年寄りと交流した。毎年実施しているもので、当日はカラオケで一緒に歌ったり、ライオン横関直樹が得意のマジックを披露するなど、楽しいひと時を過ごしてもらった。

また、クラブが誇るハンドベル同好会（平田和則会長）が、「春が来た」「春の小川」など季節の童謡・唱歌や、時代劇・水戸黄門のテーマソング「ああ人生に涙あり」を演奏。お年寄りから絶大なる支持を獲得した。

同クラブのハンドベル同好会は2004年に結成され、亀寿園の訪問や心身障害児との交流会、家族例会で演奏を披露してきた。継続事業やクラブ内での演奏が中心となるため、出演の度に新曲を仕入れ、既にレパートリーは30曲を超える。クリスマスシーズンには「ジングルベル」など、ハンドベルに最も合う曲が中心だが、「マイウェイ」や「いい日旅立ち」といった内外のスタンダードから、単に自分たちがやりたかっただけという「チャコの海岸物語」まで、ジャンルは非常に広い。

ただし同好会メンバーのほとんどが、楽器未経験者。そのため楽譜より耳コピ中心。出演が決まると、2週間前から準備を始め、1週間前からは毎晩、特訓を重ねることになる。

この時、メンバーの一人で、吹奏楽経験者のライオン高木経隆が、パソコンの作曲ソフトを駆使して、ハンドベル用にメロディをアレンジ。練習ではその音を聞きながら、それぞれ自分が担当する音符に色を塗り、テンポに遅れないようベルを鳴らす。初めての曲を練習する時は、ワンテンポずれるなんてことはザラで、やはり吹奏楽経験者の平田会長は、「うちのハンドベルは音を云々するのではなく、反射神経が勝負」と笑う。

メンバーの多くは悪戦苦闘の連続だが、アクティビティで役立つことを考え練習に励む。また、子どもたちやお年寄りの手を携え一緒に演奏すると、非常に喜んでくれ、それもモチベーション・アップにつながる。

アクティビティと親睦。ハンドベル同好会はその両面を持ち、ライオンズクラブの縮図とも言える。そのため入会者があると、いち早く勧誘に動く。新会員は同好会に加わることで、早くクラブになじめ、アクティビティへの参加意識も持てる。結成から5年、そうした意味でも、同好会の存在感は増しているようだ。　（取材／鈴木秀晃）

東京葵ライオンズクラブ

平和の誓いを胸に戦没者慰霊

4月4日、東京・千代田区の千鳥ケ淵戦没者墓苑で東京葵ライオンズクラブ（武田右近会長／100人）が主催する第36回戦没者追悼慰霊式典が開かれた。絶好の花見日和となったこの日、都内随一の桜の名所として知られる千鳥ケ淵は満開の花を愛でる人々で大いににぎわったが、墓苑一帯だけは静粛な空気に包まれていた。

この墓苑は1959年に国が建設した「無名戦没者の墓」で、第二次世界大戦終戦後、海外の戦地から持ち帰られた戦没者の遺骨のうち、身元不明のため遺族の元に帰れなかった遺骨が納められている。納骨堂に安置された遺骨は、35万2297柱にも上る。

東京葵ライオンズクラブは戦没者の追悼と世界平和の願いを込めて、クラブ結成直後から毎年、桜が満開となるこの時期に慰霊式典を開催してきた。また春と秋の2回、墓苑の清掃奉仕も行っている。

式典には来賓に石川雅己千代田区長、石井征二330‐A地区ガバナーらを迎え、地区内外のメンバーの他、同クラブが日頃から支援しているガールスカウトや日本補助犬協会の方々など325人が参列。厳粛な雰囲気の中にも、和やかで心のこもった式が執り行われた。

黙祷に続いてまず行われたのが献水の儀。戦没者に捧げる水は、全国友好葵ライオンズクラブとして提携を結ぶ14クラブそれぞれの地域から届けられた「故郷の水」。立原祐司333‐E地区ガバナー（茨城県・水戸葵ライオンズクラブ）を始め参列した各クラブ代表によって墓前に供えられた。

その後、茶道雅流家元による献茶の儀、武田会長（歌舞伎役者・市川右近）の献舞、陸上自衛隊第1音楽隊とライオンズ会員のコーラス・グループ「たんぽぽ」による音楽奉献に続き、参列者全員が祭壇に献花をして手を合わせた。

式を締めくくる閉会の辞では、ライオン伊賀則夫が特攻隊員が家族にあてて残した遺書を暗誦で披露。胸に響く言葉に、参列者一同は平和への誓いを新たにした。

（取材／河村智子）

富山神通ライオンズクラブ

障害者の機能回復と憩いの場

日本では心身障害者の施設整備がまだまだ遅れています。富山神通ライオンズクラブ（吉田誠会長／96人）では従来から心身障害者の機能回復を目的とした訓練施設の必要性を認識しておりました。今回、市内の城山呉羽丘陵に園地整備計画があると知り、野外訓練施設を作ることを富山市に打診したところ無償で土地の提供を受けられることとなり、この事業に取り組みました。

当クラブがホストクラブとなり、同じゾーンの富山セントラル、八尾婦中、大山、富山西、富山昭和、富山いきいきとの全7クラブによる共同事業としてLCIF一般援助交付金を受け、2段式の手すりやベンチ、休憩所を設置。また併せて、富山神通ライオンズクラブの40周年記念事業としてソーラー時計の寄贈と桜の植樹を行いました。

3月29日の披露・贈呈式は、春とはいえ底冷えのする日となりましたが、富山市副市長始め市関係者、富山県立盲学校、ゆりの木の里など障害者施設の関係者の方々、また田谷正地区ガバナー始め多くのライオンズ・メンバーのご出席を頂き開催されました。

今後この施設が、障害を持つ方々とそのご家族に訓練と癒やしの場として役立てて頂くだけでなく、幼児・高齢者を含めた多くの一般市民にとっても自然を生かした憩いと交流の場となることを願っております。

（40周年記念大会委員長／田中俊夫）

熊本中央ライオンズクラブ

障害者駅伝大会開催

前日まで降り続いていた雨も夜明け前に上がり、2月28日、第9回熊本中央ライオンズクラブ杯障害者駅伝大会が熊本県民総合運動公園で開催された。知的障害者の皆さんの健康作りと社会参加を目的としている。県内の養護学校や授産施設などから45チーム、225人の選手が参加した。

朝8時、ライオンズ・メンバーが集合して大会本部や記録席、受付の設営、選手走路の確認、のぼり旗の設置作業などを慌ただしく行った。

9時40分、熊本市消防音楽隊による軽快な音楽と共に選手が入場。開会式ではひのくに高等養護学校の丸山昇平選手が見事な選手宣誓をした。

10時45分、いよいよ競技開始。延べ10キロのコースを5人がタスキを渡していく。スタートしてから35分、ひのくに高等養護学校のアンカーがゴールテープを切って7連覇を達成した。

しかしこの大会、ここからが感動の幕開けなのだ。参加選手は13歳から最高年齢は61歳。体力面では大きな開きがある。が、ゴールに向かって走る懸命さでは誰一人として負けてはいない。持てる力を振り絞ってゴールを目指すすべての選手、それを応援する沿道の先生、保護者、家族らの掛け声が選手を後押しし、一人の棄権者もなく全員が完走した。最後尾チームのアンカーによるラスト100メートルでは全員の心が一つとなり、ゴールに飛び込むと大きな拍手が競技場に響き渡った。

大村豊第1副会長は閉会の言葉の中で、「来年もまた一緒にこのすばらしい体験をしましょう」と呼び掛けた。クラブ全員の心にやり遂げた充実感とすがすがしい連帯感があった。

（松尾哲）

愛知県・新城ライオンズクラブ

助っ人集団「サポート部会」

3月20日、春の陽気に包まれた新城の名所桜淵にて、サポート部会のメンバーは笑顔と笑い声に沸きながら草取り作業に励んだ。

新城ライオンズクラブ（佐津川勝利会長／78人）の有志による奉仕活動グループ「サポート部会」は、1999年に発足した。それ以前は委員会として活動していたのだが、単年度制度の枠に捕らわれず、災害時にも理事会承認等の手続きを待たずに即時に動き出せるというメリットを考慮して形を変えた。また、サポート部会の活動に興味を持ち、続けられる環境にある人が集まることで、より質の高い奉仕が行える。大工や電気工事、水道工事など専門技術及び機材の持ち主や、雑貨店、食料品店主ら、現在22人がそれぞれの特技を生かして活動している。部会の運営費はライオンズ会費とは別に自分たちで出し合う。

サポート部会の活動例を紹介しよう。市内の独居高齢者宅の屋根の修理や庭の草刈り、正月用の餅の宅配、市内各所の落書き消し、市民の憩いの場である桜淵の藤棚の整備等々、多岐にわたる。2000年9月、県内の新川町・西枇杷町の大水害や、04年11月新潟県中越地震では川口町へ、07年7月新潟県中越沖地震では柏崎へ、いずれも被災地にすぐさま赴き、災害復旧、支援物資の提供、また温かいうどんなどを手作りして被災者の方たちに奉仕した。

今自分たちが生活出来るのは地域社会のおかげだと思う。我々は行政の行き届かない部分を中心に、地域の人々との触れ合いや仲間と共に汗をかくことを心から楽しんで活動している。それはまるで学生のクラブ活動のようで、サポート部会がなくなったらライオンズを脱退するとまで言うメンバーもいるほどだ。それだけやりがいのある部会なのだ。今後も変わらずにこの活動を続けていくことが一同の目標である。

（サポート部会）

茨城県・土浦亀城ライオンズクラブ

視覚障害者支援メッセージ・ライブ

イラスト／篠田和夫

土浦亀城ライオンズクラブ（中川原伊佐武会長／68人）は1月18日、結成40周年の記念事業として土浦市民会館にて、声楽家の田中玲子氏をお招きし、「目が見えない、これが私の個性です」と題するメッセージ・ライブを行った。視覚障害者に対する一般市民の理解を深め、支援の輪を広げようという企画である。

田中さんは埼玉県秩父市生まれ。中学生の頃に見え方の変化に気付き、高校は筑波大付属盲学校へ進学。その後、先天性網膜色素変性症の診断を受け、猛特訓の末、点字受験で武蔵野音大声楽科に入学された。3児の母となった今はコンサートや講演会を通じて、障害者になっての経験や思い、理解してほしいことなどを話されている。

今回のライブでも自らのこれまでの歩みを柔らかい口調で語り、時々歌を交えられた。約千人の聴衆は、お話とうっとりするようなソプラノの歌に引き込まれ、しわぶき一つ聞こえない。70分間はあっという間に過ぎていった。

準備にあたり実行委員会がいちばん頭を悩ませたのが、いかにして多くの観客を集めるか。2万枚のチラシを印刷し、各種団体、学校、役所等を手分けして訪問。また新聞関係の仕事をしている会員も広告面で大きな力となった。当日は心配に反して、講演が始まる頃には1、2階席はほぼ満員となり、誰からともなく「やったぞ！」との声が上がった。

久しぶりの大イベント。周年行事の経験のない若い会員には大変良い経験となったし、何でも前向きに取り組むことの大切さを改めて実感した。

（幹事／高安俊介）

新潟県・燕ライオンズクラブ

雪つばき支部新年会開催

1981年結成の歴史ある燕ライオネスクラブは昨年2月、燕ライオンズクラブ(71人)の「雪つばき支部」として新たなスタートを切った。加藤弘明前地区ガバナーを始め多くの皆様のご支援のおかげである。

昨年12月14日から新年1月3日まで、当クラブはマレーシアからのYE生ヤン・イー・ピンさんを受け入れた。燕中之口ライオンズクラブとの合同例会ではピンさんに日本文化を紹介すべく、支部メンバーが詩吟「不識庵機山を撃つの図に題す」と、踊り「花のワルツ」を披露した。

09年2月6日は雪つばき支部にとって記念すべき第1回目となる新年会。会場は、大河ドラマ「天地人」にもゆかりのある岩室温泉・高島屋。部屋の掛軸に「獅子吼」とあり配慮に感激する。

新年宴会のアトラクションの最初は本間俊明ライオン・テーマー、柳田健治テール・ツイスターによる「俊ちゃん・健ちゃん新春大マジックショー」。軽快なポール・モーリアの「オリーブの首飾り」をBGMに、種も仕掛けもある演目が三つ。トークも技も昨年より上達している。

その後、支部メンバーによる美空ひばりの「花売り娘」の踊りが披露され、最後は全員で輪になって「これから音頭」を元気に踊った。

来る5月には雪つばき支部「チャリティーバザール」が開催される。メンバーのパワーに今後一層の活躍を確信した。

（会長／真島一誠）

静岡駿府ライオンズクラブ

「親子森林体験教室」開催

静岡駿府ライオンズクラブ（佐藤慰武会長／62人）は11月9日、静岡市葵区の安倍川上流に位置する大間地区で「親子森林体験教室」を開催した。今年度のクラブ・スローガン「自然の恵みに感謝！ 守ろうこの緑と清流」を実践すべく、地元の小学生約50人と父母25人を招待。森林のインストラクターやクラブ・メンバーの指導を交えながら、森林散策の中で間伐、枝打ち、丸太切り、杉やヒノキの植樹など、自然との触れ合いを体験してもらった。

その後、林業を営むライオン山田勝通所有の桜の段（森林体験現場近くにある休憩広場）において、メンバー手作りの昼食を振る舞った。メニューは、朝早くから杵臼でついて作った大福餅、アマゴの塩焼き、豚汁、カレーライス、焼きソバなど盛りだくさん。昼食後は同会場で鳥の巣箱作り。最後は地元の製材工場の見学をした。後半はやや小雨まじりのあいにくの天候となってしまったが、早朝から夕方までの長時間にわたる体験教室を無事終了することが出来た。

参加児童は「木の育つ環境を作る一人ひとりの努力や思いが大切だと思いました」と感想文に書いている。同行された校長先生からは心温まる礼状を頂き、ライオンズについて「共有する精神の下に集う『大人の集団』のかっこよさを感じた」との賛辞を頂いた。今後もこの意義深い事業に取り組んでいきたい。

（PR・会報委員会）

三重県・伊賀上野ライオンズクラブ

第6回わくわく子どもフェスタ

伊賀上野ライオンズクラブ（上田宗久会長／69人）は青少年健全育成の一助として長きにわたり、3月第3日曜日に地域と親子のふれあい事業を実施している。今年も3月18日、「わくわく子どもフェスタ」を開催した。かつては上野市教育委員会及び同市児童福祉会と、平成の市町村合併で伊賀市となってからは上野地区児童福祉会と共催し、毎回、クラブの青少年健全育成推進委員会と協議を重ね準備を進めている。

今年は天気にも恵まれ、ゆめドームうえの第1競技場に、子ども約千人、大人800人の親子連れが訪れた。ナイヤガラを再現した積み木崩しを始め、ペットボトルによる水ロケットの製作、エコ体験として自転車発電、バルーンアート、理科実験零下200度の世界、消防署による地震体験車、昔の遊びやものづくり体験など、多くのコーナーで子どもも大人も夢中になって時を過ごした。

子クラブである伊賀北ライオンズクラブの協力も得て、メンバーたちは遊びの補助員としても奮闘。ゆめドーム前広場での軽食の接待、綿菓子の提供は祭りの屋台のようで、午後3時の終了後も子どもの声でにぎわっていた。

大人社会に至るまでの人間形成が成されるには、子どもの遊びや体験学習が必要不可欠であると考える。彼らの成長の一翼を担うことが出来たこの日は、クラブ・メンバーにとっては軽い疲労も心地よく、至福の時であった。

参加してくれた子どもたちが、この体験を将来の糧として羽ばたくことを祈念した。

（幹事／稲浜多蔵）

東京葛飾ライオンズクラブ

献血活動への誇り

1月29日。今朝はめっきり冷え込んでいる。東京葛飾ライオンズクラブ（38人）の、年間24回に及ぶ献血活動の新年第1回目。葛飾警察署前のイトーヨーカドー入口では、既に日赤の方たちが準備に追われている。奥山貞夫会長以下メンバーと、町の婦人部の奥様たちも頬を真っ赤にして大勢がんばっている。

テーブルを並べる人、書類を整理する人、粗品を整える人、まめまめしく働く姿に、私は「これが本当の奉仕の精神なんだ」と得心した。

医師の「始めましょう」の合図と共に、一番乗りの青年が受付デスクの前に座った。私と目が合うとニコッと笑顔を示された。30分もすると10人ほどが並び始めた。皆、生き生きとした緊張感が感じ取れる。

かつての売血から、今は献血という立派な制度に生まれ変わり、皆が世の中のためにがんばっている姿は、頼もしく本当にうれしく感じられる。と同時に、私もライオンズに入って良かったとつくづく思うのである。

今回は受付94人、400ミリ献血54人、200ミリ15人。不適格と診断された幾人かの方たちは寂しそうにお帰りになった。

献血という事業の中で、今の自分の健康に感謝する。いつまでも元気で、ライオンズの輝かしい「ウィ・サーブ」に力を注いでいこうと誓った。

（計画副委員長／左近充尚典）

大阪府・能勢ライオンズクラブ

「眼の健康相談」開催

能勢町には眼科医がいない。そこで能勢ライオンズクラブ（松尾義信会長／34人）はクラブが結成された1977年以来、「眼の健康相談」を継続事業として無料で実施している。折り込み広告にチラシを入れて受診者を募集するのだが、先着50人の定員はすぐに埋まり、キャンセル待ちが出る盛況ぶりだ。

今年も2月21日、能勢町福祉部保健医療課の協力の下、能勢町健康福祉センターで開催した。

対象となるのは次のような人。①眼のかすみ、視力の衰え、眼の疲れなどの自覚症状がある②糖尿病・高血圧の罹患者で眼科受診をしたことがない③平成20年度の町の検診などで眼底検査の結果が要精密検査であったが、眼科を受診していない。市立川西病院の眼科医の先生が診察と相談に当たってくださった。

眼科医のいない農山村に働く足腰が丈夫な高齢者にとっては、眼の病気がいちばんの不安要素。それを相談出来る機会とあって、大変喜ばれているのである。また、先生からも「重大な眼病の早期発見にもなった」と聞いて、この事業の意義を改めて実感し、今後も継続していこうと決意を新たにした。

（幹事／加治益三）

愛媛県・伊予小松ライオンズクラブ

スケートボードコンテスト2009

会員数16人の伊予小松ライオンズクラブ。小さいながらも団結力を誇る我がクラブがこの事業に取り組んだのは6年前。野球やサッカー競技を支援する団体はたくさんあるが、「今、本当に支援する必要のあるスポーツは何？」という話し合いから浮上したのは、当時あまり認識されていなかったスケートボードだった。

その頃、学校でちょっとはみ出た青年たちが、夜になると町内のスーパーや公園の駐車場に集まり、大きな音を立ててスケートボードをするものだから、近隣の住人から苦情続出、問題化していた。そこで小松町は県内初の常設スケートボード場を建設。青少年の健全育成を目的とする団体がここで大会を開催していた。この団体に当クラブ会員が所属していたこともあり、「伊予小松ライオンズカップ・スケートボードコンテスト」を開催することにしたのである。

今年4月5日のコンテストには、香川、広島、大阪、和歌山など県外から参加した子もいて、6年の継続の重さを感じることが出来た。毎年参加する子が彼女や子ども連れで来てくるなど、成長ぶりも見られる。

エントリーした37人は、レベルによってビギナー、オープンの2クラスに分かれる。1分半の持ち時間に技を披露し、得点を競い合う。ジャッジ3人の平均点で勝敗が決定。予選から決勝へと進む。当日は肌寒い日だったが、それぞれが練習を重ねた自信の大技を次々に決めて、詰めかけたギャラリーから大きな拍手を受けていた。参加者たちは大会のテント張りや準備・片付けも積極的に行った。青少年健全育成及びアクティビティの在り方について、常に時代を念頭に置いて柔軟に考え、積極的に取り組んでいく必要を実感している。

（会長／日野弘毅）

京都府・三和ライオンズクラブ

ふるさと文化講演会

三和ライオンズクラブ（21人）は3月23日、2回目となる「ふるさと文化講演会」を開催した。三和町出身で、さまざまなジャンルで活躍されている方を講師に招いての講演会である。

今回、第1部は八木透仏教大学教授による「暮らしの文化再発見――三和の年中行事と通過儀礼――」。宮参り、お食い初め、かぶ講、みや講、大原の産屋など、三和に伝わる伝統行事を分かりやすく解説、「人として生きる」ための秩序の回復が求められると話された。

第2部は劇団炎郡（ほむら）による演劇公演「RANDO夢（ランダム）命は火だ。縛れはしない」。当町では、若者たちの熱気あふれる芝居を生で観られる機会はあまりないとあって、好評を博した。

この講演会は、私たちの暮らしに目を向けたり、町民の方々と共に楽しめる機会を提供することで、我が町のライオンズの存在をPRし会員増強にもつなげることを目的としている。昨年は、大月和夫広島大学名誉教授による、移り変わる家族像についての講演と、ジャズ演奏会を実施している。まだ試行錯誤の段階だが、今後更なる努力と工夫を重ね、より一層喜んで頂けるものにしていきたい。

（会長／岡部陽太郎）

北海道・札幌東ライオンズクラブ

ベトナムの施設へ車いす10台を届ける

札幌東ライオンズクラブ（木戸善幸会長／36人）は、札幌に本部を置くNPO法人「飛んでけ！ 車いす」と協力して、ベトナムへ車いす10台を寄贈した。

「飛んでけ！ 車いす」は全国から中古の車いすを集めて修理し、旅行者に機内持ち込み重量制限の余裕分を利用して現地へ運んでもらう活動を展開。既に東南アジアを始め世界66カ国へ1600台以上を届けている。

当クラブ・メンバーの事業所のベトナム旅行に、会長を始め5人のライオンが同行。総勢20人が協力し、ホーチミン小児センターへ車いす10台を運んだ。

旅行3日目の2月9日、35度という熱暑の中、全員でセンターを訪問。贈呈式を行うと共に施設を見学した。Dr.トラン・バン・タン・センター長には心の込もった謝辞と感謝状を頂いた。

「飛んでけ！ 車いす」からはベトナムへ届けられる車いすが最も多い。戦争によって手脚を失った人だけでなく、枯葉剤の影響で障害を持って生まれてくる子どもが大勢いるからだ。資金不足と医療技術の遅れもこれに拍車を掛けているのだろう。

センターでは入院患者約100人の他、託児所に40数人の子どもたちを預っている。施設内で使う共用の車いすはあるが、30人ほどは個人の車いすを持っておらず、自宅に帰れば外出も不自由な状況にある。

障害があっても子どもたちは明るく元気で、その屈託のない笑顔を見ると胸が詰まる思いだった。JICAから派遣され、同施設で働いている宮嶋愛弓さんは、「ここにいる子はまだ幸せ」と言っていた。彼女の献身的な姿も印象的だった。

車いすが届くのを待ちわびる人が大勢いる。ぜひ、支援の輪を全国のライオンズ活動の中で広げたい。

（PR情報委員長／辻岡公夫）

大分坂ノ市ライオンズクラブ

坂ノ市地区ふれあい清掃運動

「拾っている人を見ると、ゴミは捨てにくくなるものです」

　大分坂ノ市ライオンズクラブ（岡田陽介会長／23人）では年数回、地域の清掃活動を実施している。中でもチャーター・メンバーのライオン見塩未知洋は、我が街を美しくと、毎日時間を見つけてはゴミ拾いを続けている。私たち若いライオンも後に続けと心掛けている。

　2月22日に実施した「坂ノ市地区ふれあい清掃運動」には地域の児童、生徒、学生、企業の従業員ら18団体が参加、総勢386人の大きな輪に広がった。次世代を担う子どもたちに、人のために働く奉仕の精神を、そして環境を考える機会を、私たち大人が実践を通じて伝えていかなくてはと思う。

　ゴミ拾いは、萬弘寺や丹生川河川敷など6コースに分けて回った。小学生の安全には十分に配慮した。坂ノ市地区は花いっぱい運動をしているため、道路脇の花壇、植栽枡は花が満開。これらを見ながら小学生に「なぜパンジーというか知っている?」と尋ねたら、「なんで、なんで?」と問い掛けてきた。「フランス語のパンセ＝考えるという言葉からきていて、花が下を向いて考えているように見えるからよ」と説明したら、楽しそうだった。花を可愛いと感じられる子どもはゴミも落とさないだろうと思える、奉仕の一日だった。

（環境・青少年委員長／佐藤洋子）

徳島すだちライオンズクラブ

ファッション・ショー例会を開催

　12月13日、毎年末恒例の公開例会を開催した。多くの市民に見て頂く広報活動が目的で、今年の企画は新たな試みであるファッションショー例会。これまでには地元スポーツ・チームの応援を兼ねた例会や、我々のアクティビティ企画を四つほど挙げてノン・ライオンの方々に投票してもらう、などを実施してきた。

　当日はノン・ライオンの方々約80人が参加。国歌もライオンズ・ローアも一緒に唱和して会場は一体感で盛り上がった。食事の途中にファッションショーを演出した。目指すところは、①楽しい例会を参加者全員で共有すること。②若年層にも例会を楽しんでもらい、ライオンズクラブを実感してもらうこと。

　プロのモデルとライオンズ会員が華やかな衣装に身を包み会場を闊歩した。モデル役の会員にはやや緊張が見られたものの、なかなか堂にいった仕事ぶり。モデルと腕を組んでのショーでは新郎新婦と見まがうほどで、会場は歓声と感嘆のため息（俺も一緒に歩きたかった……というため息?）にあふれた。

　出席者からは「楽しい時間でした。来年もこんな企画があれば参加したい」との声を頂いた。彼らを新会員として迎え入れるきっかけになればと願っている。出席者にはご理解を得て会費を頂いているのだが、今後は低廉化も検討していく予定である。

　会員増強についてはさまざまな方策が紹介されているし、我々も日々模索している。短期間で結果を得ることは出来ないかもしれないが、今後も先輩クラブの取り組みなども参考に、試行錯誤を続けていきたい。

（計画実行委員長／大川一則）

●獅子吼（ししく）
①仏が説法するのを、獅子が吼えて百獣を恐れさせる威力に例えていう語。
②大いに熱弁をふるうこと。（広辞苑）
●投稿要領→5月号56ページ

糖尿病異聞

堀田　和之（三重県・員弁）

70で本老人、80過ぎたら早死に競争という状況を察する時、老いは悲しく、病はつらい。老の病はなおつらい。

がんはいいか。命にかかわるが、切ったり張ったりで決着が早い。

糖尿病はどうか。早々に死を迎えることはないけれど、音もなく理由もなくやって来て、しかも結果は重大だ。「なっちまったら」一生もんで完治はしない。年間1万人を超す人が、合併症で失明したり、足を切断したり、人工透析に通う現実をご存じだろうか。更には脳や心臓などの血管障害にも、健康な人の数倍もかかりやすいという実にキケンな病気なのだ。医の側の踏ん張りもいまいちで、「詳しいことは分からない」という表現はしばしば「まるで分からない」に直結する。

なまなかな評論家の比ではない、病歴20年のほんまもんが、その糖尿を語る――患の側から。

おかしな病気

糖尿とはおかしな病気である。病院へ行くと、分かりません（原因不明）、治りません（完治せず）、あなた次第と言われる。風邪を引いたって薬や注射で何んぼというのに、分かりません、治りませんでお会計じゃたまらない。関西風に言えば、まさに「しょうむない」病気なのである。

だから近年、患者が人口の1割を超え、更に増え続ける国民病と言われるようになっても「病院へ行こう」としないのだ。後に深刻な結果を招くというのに。

イラスト／小川和政

もちろん、これは患者側の一方的な物言いであることは承知している。本屋の棚を見るがいい。糖尿病関係の本がズラリ並ぶようになった。その歴史、成り立ち、症例など、いかにも医の側の労作である。

ただ、藤原道長や夏目漱石など、昔日のインテリ・ヒーローたちも糖尿であったという記述はあっても、それを治してやったという記録はない。今更そんな昔のことを言われてもというのは十分理解の内だが、ずっと長い間、患の側が抱き続けた糖尿への「やるせない思い」を伝えずにはいられない。

ようやく最近になって「糖尿の日」が設けられたり、糖尿病専門医という言葉があちこちで使われ出した。国民的関心の盛り上がりである。何はともあれ、やはり究極は医の側が頼りであることに変わりはない。スーパー外科医や心臓医がテレビをにぎわす時代、一日も早くスーパー糖尿医の登場を願わずにはいられない。

立派な病気

糖尿はかつて「トォニョー、トォニョー」と言って軽くあしらわれていたが、今では立派な糖尿「病」である。痛くも痒くもなく、何年もかけてやってくることからサイレントキラーと呼ばれる。身体がだるい。ノドがかわく、小便の回数が増える。甘ったるく匂う。昼間から眠いなど、特有な症

状が現れてくる。

尿に糖が出るから糖尿と思われがちだが、むしろ血液中の糖分が必要以上に高い状態、世に言う高血糖が続くことによって「病人」とされるのだ。その数値は空腹時、食後2時間値など区別されて、糖尿の本には必ず記されているので、健常者も予備軍を含めて一度血液検査の上、自分が今、どのような状況にあるか知っておくことをお勧めする。それこそ「放っておくと大変なことになる」からである。

ヨレたタテ髪

草原をしっ走するライオンの姿は美しい。王者のタテ髪が黄金色に輝く。しかし、ライオンも年を取る。元々オスは用心棒的存在で、メスが狩った獲物を我が物顔で平らげ、あとは日がな寝そべっている。年を重ねタテ髪もヨレて輝きを失う。年寄りクラスのライオンズ・メンバーもこれに似ている。「おーい、メシ」と言って満腹し、後はテレビの前で菓子をつまんでうたた寝する。飲んで帰って小腹がすいたと言ってラーメンをすする。胃に持ったまま寝てしまう。流行りのメタボと相まって、こんなところからも糖尿を発症する。

余談になるけれど、最近、多くのクラブで糖尿病講座が持たれるようになったのはご同慶の至りであるが、それはそのままライオンズ会員の病と高齢化に大いに関係している。若く行動的なライオンの入会が心から待たれる。そうでないと大変革の時、組織の活性化と「チェンジ」が果たせない。

次の機会に糖尿の治療法に触れる。薬や注射はどうか。医の側にタテつくようだが、まずは「腹、半分目」をお勧めする――患の側から。

（元地区ガバナー・68歳）

透析もまた楽し

松井　翠嵐（福岡県・大牟田中央）

活字離れが言われて久しい。それはテレビが一般家庭に普及し始めた、昭和28年頃からではないかと思う。

私は子どもの頃、貧しい家に育ち、読書とは全く縁のない生活をしていた。これが遠因となり、その後、書道生活が超多忙を極めたこともあって、書道の専門書以外、本を読む、つまり活字に親しむことがほとんどなかった。

平成12年、満80歳の時、慢性腎不全から、透析に踏み切り、週3回の病院通いとなった。透析を受ける部屋には備え付けのテレビもあるが、これを機に、日頃叶わなかった読書をすることにした。

長い間書架に眠っていた山岡荘八の『徳川家康』26巻や吉川英治の『新平家物語』24巻を手始めに、五味川純平の『人間の条件』8巻等の名作小説類から、『漢詩大系』24巻等、昭和20年代に求めたものの読み返しから始まって、所蔵本はもちろん、新しく買い求めた専門書まで数百冊を読破した。

毎月送られてくる『ライオン』誌を、すみからすみまで熟読するのもこの時間だ。じっと動かないでいる時間が4～5時間、ぼんやり何もせずに寝ているのは尊い時間の無駄だから、有効に利用しないのはもったいない。

また折々の歌作も、この透析時間に考えることにした。歌をつくるには絶好の時間でもある。

腕には穿刺（透析のための太い針が刺さる）されており、寝たままの片手では書きづらい。そこで、看護師さんにペンとメモ用紙を持ってきてもらって、考えたことを書いてもらい、後で推敲して、一首にまとめることにしている。

前日、仕事で夜が遅く、睡眠不足になった時の透析時間は、私にとって疲労回復にはとっておきの時間でもあり、熟睡してすっきりして帰宅し、再び本職の書作活動に没頭出来る。また美しく、親切な看護師さんとの会話にも癒やされる。

透析のおかげで、私は89歳の今日まで生かされている。

ライオンズクラブに籍を置いて20年が過ぎた。毎月の例会も、透析時間をやりくりして、100％出席出来るし、その他、奉仕作業もすべて出掛けている。ありがたいことに、書道教室もまだ現役で続けている。

透析もまた楽し！

透析万歳‼

「スリランカに中古眼鏡を」プロジェクト

有野　勇（兵庫県・三木中央）

1月16日から24日まで、335‐D地区のクラブが集めた眼鏡を届けるため、スリランカへ行って来ました。

これは昨年のバンコク国際大会の折、緒方義則地区ガバナーが、あるスリランカの会員から聞いた「スリランカには視力が弱くても眼鏡を買えない人が大勢います。中古の眼鏡でもあればいいのですが」という話がきっかけとなっています。帰国後、緒方ガバナーは早速、地区内のクラブに眼鏡の収集をお願いされました。

その結果、昨年末までに、新しい眼鏡と中古の眼鏡及びパーツを合わせて約2千セットが集まりました。このプロジェクトは地区ＬＣＩＦ委員会が担当することになり、委員会ではこれらの眼鏡をクリーニングし梱包した上で、現地に届けることになりました。

16日に関西国際空港を出発、タイ・バンコクで乗り換え、コロンボ空港に着いたのは翌17日の午前0時を過ぎていました。空港には、バンコクで緒方ガバナーと話をさ

獅子吼

れたオライアアシュレーや、地元の新聞記者らが迎えてくれました。そして、空港近くのホテルで着替えた後、コロンボから約３７０キロ東にあるアンパラへ向かいました。

道中は真っ暗闇で、非常に不安でしたが、途中でアソカ・グナセケラ元国際理事と奥様のブッディーニ・グナセケラ地区ガバナーなど8人の皆さんと合流。アンパラへ着いたのは午後0時半でした。自宅を出てから33時間経っていました。長旅でしたが、温かい出迎えを受け、疲れが一挙に吹き飛びました。

アンパラでは306‐Ｃ2地区第3リジョン第1ゾーンの会員や現地の子どもたちなど、約２５０人が大歓迎してくださる中、早速、306‐Ｃ2地区が用意した学用品や335‐Ｄ地区で集めた眼鏡の贈呈式に臨みました。子どもたちの笑顔に、緊張していた心が癒やされました。

贈呈式の後、ライオンズによる就職斡旋相談や生活相談などの聞き取りが行われました。また、給水車での水の供給や、レオ・セミナーが開かれていましたし、近くの病院では院長によるセミナーも行われていました。院長によると、「この地域では地下水にカドミウムが混入しており、毎月4、5人の死亡報告がある。今までに確認しているだけで２００人以上が死亡している。アンパラの人口は約8万9千人だが、水道の整備が遅れ、大半が井戸水や雨水を使用している」ということでした。

眼鏡の贈呈は、22日にも306‐Ｃ1地区のクラブで実施しました。そのクラブは結成4年目で、27人の会員が活動していました。次期会長予定者ご夫妻は10年以上も日本に住んでいたということで、日本語が堪能でした。彼の話で特に印象に残ったのは「ボランティアをするには、自分自身が苦労していないと相手の気持ちが分からない。相手が感動するような奉仕をすると自分も感動出来る」という言葉でした。

今回、眼鏡を直接届けさせて頂くプロジェクトに参加し、喜びの笑顔に触れられたことが最大の収穫であり、また、会員同士の絆がいかに強いかを改めて知りました。

今回の旅に際し、特に337‐Ａ地区第2リジョン第2ゾーンの重松史郎ゾーン・チェアパーソン（福岡玄海ライオンズクラブ）に、スリランカの元国際理事ご夫妻の紹介や現地との交渉をして頂きました。また、毎日電話で無事の確認をしてサポートくださいました熊渕秀夫地区副幹事や、現地日本大使館の警備担当・森中氏など、多くの皆様には心より感謝申し上げます。

ネパールで放映された支援活動

一刈 吉房（福岡鶴城）

２００８年7月のこと、ネパールの山村で10年間にわたり続けられた教育支援――、この姿を国営テレビが放映した。その反響、リクエストの多さにＴＶ局は再放映したとか。映し出される画像から、支援の10年を振り返ってみた。

ポカラの辺地千メートルの山村、ニルマルポカリ村への教育支援は１９９８年から始まり、10年の時を経てひとまず終了した。支援の期間を10年としたＮＰＯ法人福岡・ネパール児童教育振興会は今日まで、多くのライオンズクラブや団体、企業・個人に支えられてきたのである。

幼稚園から高校までの校舎建設、施設の整備を精力的に進めてきたが、今後の学校運営は村人に託されることになった。とは言え、早くから一抹の不安を抱いていた振興会の篠隈光彦理事長（福岡博多東ライオ

ンズアクラ）は03年、村人の自立を促がし、コーヒー栽培を提案した。理事長は「依存心の高い国民性なので、支援終了後の学校存続に不安があった」と話す。そこで、国際商品のコーヒーで外貨を獲得、村を豊かにして教育環境を整えようとしたのだった。

資源の乏しい国ネパールは、支援を待ち望み、そして実際に多くの国から支援されている。が、教育支援にとどまらず自立を促がすことで、村の教育環境を整えようとする振興会の考えが、TV放映の動機になったようである。

村人の心を動かしたコーヒー栽培は、近隣のペグナス村では既に輸出の域に達していた。ペグナス村の成功者スルヤ・アデカリさんの指導を受け、早速、苗木の植樹を始めたが、しょせん素人集団。十分な管理が出来ず、大半の苗木を枯らしたのである。

前途を案じた振興会から、協力の要請を受けたのが04年秋。私は50年余、コーヒーにかかわってきたが、栽培のプロではない。知人の協力を得て翌年1月、初めてネパールに向かった。

まず他の産地を知ることからと、首都カトマンズに近いカブレ地方のコーヒー畑に。畑はみな小さい。ネパールのコーヒー畑の大半は農家の庭先に作られ、急峻な棚田の一角にある。

カブレでネパール国営TVのカメラマンの取材を受けた。彼の名はギーミレ・プル。数年前から振興会の活動を追っていると話し、目的地のポカラまでついて来た。支援する教育現場や、栽培現場の撮影、その後も季節の折々に村を訪れること数回、それは番組が完成する08年春まで続いた。

再びコーヒー栽培の現場に戻る。ひとまず終了したのは教育支援だが、栽培のサポートは続いている。JICAの支援で水供給のインフラは多少改善されたが、すべての畑までは賄えない。水の供給が最大の課題との考えは今も変わらない。

05年以後、年に1、2度は村に足を運ぶが、10日前後の滞在では、指導というよりもっぱら励ましばかり。コーヒーは収穫までに3～5年を必要とする。村に初めて行った05年、農民代表を招いた懇談会で「コーヒー栽培で学校の運営資金を稼ぐには、相当な努力が必要だろう。また、隣村の村人と比較して、栽培に取り組む姿勢と情熱に違いを感じる」と訴えたと記憶している。

教育支援が始まって10年が過ぎ、植樹が始まって今年で6年目を迎えた。村人が待ち望んでいた収穫は、2年ほど前からわずかな農家で始まった。今年1月中旬、農家の庭先には真っ赤に熟れたコーヒーが実を付け、赤い皮を取り除いたコーヒーが莚に干されていた。満遍なく太陽を浴びるよう混ぜ返す老婆の手、思わず「ダンネバード（ありがとう）」と声を掛けた。村人の努力がうれしかったのだ。でも、このような農家はまれである。村人の意欲の高まりは肌で感じるが、自立で村の学校運営すべてを賄うには先が遠い。

一方、コーヒー生産国間の競争は厳しい。量産体制が整っても、買ってくれる国がなければ農家は収入を得られない。そのためにも、国の内外を問わず、消費を増やす市場作りが急務。やがて、明るい日差しと共に、多くの子どもの瞳に輝きが生まれると信じながら、あとしばらくはネパールに通うことになりそうだ。

Close up

和太鼓が元気を生み出す人の輪を広げる

「彩乃宮太鼓」は、旧大宮商工会議所女性会20周年を機に結成された女性経営者による創作和太鼓のチームです。埼玉県の「彩の国」と、「武蔵国一の宮」の大宮氷川神社から一字ずつ頂きました。この名もチームの仲間も大変気に入っています。私の宝です。2001年の市町村合併・さいたま市誕生に伴い、04年に商工会議所も合併。同時に彩乃宮太鼓も会議所から独立しました。環境が変わっても太鼓好きは変わらず。仲間もますます増え、「粋に生き活き」をモットーに、皆で太鼓に仕事にと励んでいます。

技術はまだまだ未熟ですが、太鼓の魅力の奥深さを日々実感します。バチを持って太鼓の前に立つと、すべてを忘れて太鼓に集中している自分がいます。仲間の息遣いを感じ、チームが一つになって音が重なった時には、最高の快感を共有出来る瞬間が生まれます。また、太鼓を続けていることで、周囲から「いつも元気ですね」と言われます。そうしたプラスのイメージって貴重ですよね。

練習は毎週火曜日の午後。現在は和太鼓奏者の小林太郎先生にご指導頂いています。発表の場も多く、地元の咲いたまつり、大宮夏まつりを始め、日光東照宮の流鏑馬神事での奉納太鼓、ハワイ・ホノルル・フェスティバルへの海外遠征に6年連続で参加したことは感慨深いものです。

写真提供／彩乃宮太鼓

福祉施設での慰問演奏は、太鼓をやっていてよかったと思う瞬間。演奏先で教えられることもたくさんあります。老人ホームでは、お年寄りが「元気をもらった」と言って涙を流して喜んでくれました。施設の子どもたちは、一生懸命に書いたたくさんのお礼の手紙をくれました。今でも私たちの宝物として大切にしています。この子たちは、当日早くからカレーを作って私たちを迎えてくれたんですよ。とてもおいしい一味違うカレーでした。バチを持って子どもたちと一緒に太鼓をたたいた時の、うれしそうで恥ずかしそうな顔が忘れられません。こんな日はすべてが優しさに包まれて、胸が熱くなります。

現在12人のメンバーのうち、8人が大宮さくらライオンズクラブの会員です。彩乃宮太鼓を通じて奉仕活動を体験しているので、ライオンズへも誘いやすいんです。

和太鼓に出会わなければ経験出来なかったであろう人生に大満足しています。自分が元気であることで他者を思いやることが出来るのだと思っています。

■大川信子
おおかわ・のぶこ　彩乃宮太鼓代表。㈱ライフアップ代表取締役。1998年、旧大宮商工会議所女性会20周年に結成された和太鼓チーム「彩乃宮太鼓」に参加。04年、大宮市を含む市町村合併に伴い彩乃宮太鼓は会議所から独立。日光東照宮奉納太鼓、ハワイ・ホノルル・フェステバルに6年連続で参加。96年埼玉県・大宮さくらライオンズクラブ入会。今年度クラブ会計。次年度ゾーン・チェアパーソン。

写真／田中勝明　構成／柳瀬祐子

通安全
イオン与野ショッピン

エブリデー・ヒーロー

"Lions are everyday heros."

＊ライオンズクラブにまつわる「ちょっといい話」募集中。会員の皆さんだけでなく、会員家族、事務局員などライオンズにかかわる方の投稿を歓迎します。▼800～2千字程度の文章にまとめ「エブリデー・ヒーロー」係へお送りください。送付先は57ジーをご覧ください。

イラスト／吉田悦子

「空飛ぶライオン」

ライオン安道光二は昭和48年7月に仙台エコーライオンズクラブに入会され、ライオンズの精神を常に高く持って、クラブの発展に尽力してこられました。しかし仕事の関係上、10年近く前に京都に移り住んでしまわれたのです。それでも、ライオン安道は当クラブを退会されませんでした。京都に在住しながら、年に6回は例会に出席しておられます。お歳祝い会など会員のお祝い事があると必ず出席し、皆と一緒に時を過ごされています。仲間たちに会うために、何度も何度も仙台と京都の空を飛んでいるライオン。素敵な絆だと思います。

森順子／宮城県・仙台エコーライオンズクラブ事務局

「郷土の歴史ロマンを次世代に」

愛宕山は福島県の旧伊達町（現在は5町合併で伊達市）にある唯一の山です。4月に山頂にある愛宕神社の例大祭があり、獅子舞が奉納されます。毎年、その約1カ月前にライオンズクラブで神社、駐車場、参道などを清掃します。今年も3月22日早朝から多くの会員が参加して清掃を行いました。

日頃何気なく見ている山に登り、その歴史を見つめ直すことも目的の一つです。愛宕山一帯は約千年前、伊達家発祥の地と言われています。私たちはその歴史的意義と自然環境を次の世代に伝えていかなくてはなりません。年1回の活動ですが、そんなことを思いながら山頂での作業を終えると、ちょっと冷めかけたお茶が、とてもおいしく感じられました。

菅野與志昭／福島県・伊達町ライオンズクラブ

「敬老の日のはがき」

毎年、敬老の日に合わせて、地元の独居老人の方を対象に小学生から「はがき」をプレゼントするアクティビティを行っています。クラブが用意したはがきに、子どもたちにいろんなメッセージを書いてもらい送っているのですが、ちょうど秋の運動会の時期でもあり、招待状を兼ねて送る生徒さんが多数あります。中には、運動会当日にそのはがきを握りしめて、送り主の子どもに会いに来られる方がいたり、お年寄りから「うれしかった」とお返事のはがきが届くこともあり、ちょっと心が温かくなる瞬間です。個人情報保護法の問題もあり、だんだんと継続が難しくなりつつある状況ではありますが、何とか続けていきたいと会員一同願っています。

新居香余／徳島県・日和佐ライオンズクラブ事務局

「奉仕の歴史」

クラブが主催する子どもスポーツ大会の会場でのこと。ある小学校のPTA会長から、小学生の時にこの大会でメダルを掛けてもらってたいへんうれしかった、現在も保管しているという話を聞きました。1個のメダルの意味に思いを馳せながら、今日のメダル授与も金、銀、銅と色は違えども、一人ひとりに正面から心を込めて手渡そうと気持ちを新たにしました。イミテーション・メダルが子どもたちの心の中では、かけがえのない輝く本物メダルになっていくのかもしれません。

思えば、当クラブも結成以来25周年の節目を過ぎ、諸先輩方が築いてこられたクラブの奉仕活動の歴史を感じさせられた一幕でした。

花山修二／愛媛県・東温ライオンズクラブ

福岡県大川市
大河・筑紫次郎と共に歩んできた日本一の家具の町

■写真／田中勝明　文／鈴木秀晃

若津港導流堤（通称・筑後川導流堤、デ・レーケ堤）：1890（明治23）年、有明海の干満差で生じる土砂の堆積を防ぎ、航路を確保するため、筑後川中央部6.5キロにわたり築かれた。干潮時のみ全容を見せる

←↑筑後若津橋梁（通称·筑後川昇開橋）：1935（昭和10）年に建設された全長506.4㍍の昇開式可動橋。現存する可動橋としては国内最古のもので、国の重要文化財、日本機械学会の機械遺産に指定されている。佐賀線廃線と共に本来の役割は終えたが、現在も30分ごとに昇降し、橋が降りている間は歩道橋として対岸の佐賀県諸富町と行き来出来る

筑後川水運で開けた港町

関東の利根川、四国の吉野川と共に日本三大暴れ川の一つに数えられ、筑紫次郎の別名で呼ばれる九州一の大河筑後川。阿蘇山を源に、熊本、大分、福岡、佐賀の4県を流れ、有明海へと注ぐ。

中流域から下流域にかけては、藩政時代、久留米（有馬）、福岡（黒田）、佐賀（鍋島）、柳河（立花）の4藩が境界を接し、境界争いや水争いなどが頻発。互いの仲はかなり悪かったようだ。そのため藩領防衛を第一義に、筑後川への架橋は厳禁とされ、舟運が発達した。最盛期には、この流域だけで62カ所もの渡船場があったという。

大川市は、その筑後川が有明海に流れ込む河口付近にある。江戸時代には、北は久留米藩、南は柳河藩の領地となっていた。境界は町の中心を分断し、久留米藩側の榎津地区と柳河藩側の小保地区は「御境江湖」という掘割で仕切られていた。かつての肥後街道沿いには、藩境を示す境石の石列が、今も残っている。

榎津は花宗川が筑後川に合流する川岸にあり、もともと水運の要衝として筑後川河口を守る小城下町であった。が、宝暦元年（1751）、久留米藩が農産物を始めとする物資輸送の拠点とするため、若津港を築港した後は、筑

後川本流からやや町場に入った榎津は港町として大きく発展していくことになる。また、若津港も藩の目論見通り筑後川水運と有明海航路を結ぶ物資の集積地として、筑後川最大の河港となり、筑後川の別称・大川にちなみ大川港とも称されるほどになった。

明治以降も渡し場は続々増加。漁港も相次いで整備され、ノリやエツなどの漁業拠点として現在も12漁港がある。昭和10（1935）年に旧国鉄佐賀線筑後大川駅と諸富駅間に筑後川昇開橋が竣工したが、やはり船舶優先。船が通過する時には、橋の中央部が上方に動く昇開式可動橋として建設された。

日本一の家具産地への道

若津港築港により発展した大川には、筑後川上流の豊後（大分県）日田から船や筏で杉も運搬され、木材の集積地ともなった。そして、榎津地区では木材加工業も始まり、やがて日本一の家具産地として知られる基盤が、徐々に築かれていく。

大川では、室町時代に船大工の技術を生かして指物を始めた榎津久米之介を、大川木工の開祖としている。もっとも、当時は主に船や船箪笥、収納箱を作っており、本格的な家具作りは江戸後期になってからのこと。

榎津生まれの大工・田ノ上嘉作が、

大坂で指物の修行をした久留米の細工師に弟子入りし、箱物の技術を習得。これが榎津箱物の始まりと言われ、嘉作は中興の祖と呼ばれている。

明治に入ると、これら先人の技術を受け継いだ職人が多く輩出。明治10年頃には大川独特のデザインや機能を持った衣裳箪笥等も生まれた。町村合併によって大川町が誕生した明治22(1889)年頃には、木工関係者が町全体の4分の1を占めるほどになった。

筑後川河口にある榎津では古くから木工が始まり、若津港開港と共に木材の集積地として栄えたことから、多くの材木業者や製材所、家具工場などが軒を連ねていた。写真上は現在も国産の原木を扱う㈱九州大川木材市場。今では木材の街・大川でも珍しい存在となっている

実際に大川家具の名声が爆発的に高まったのは戦後のこと。シンプルで機能性を追求した家具を手掛けた工業デザイナー・河内諒の功績が大きかった。

この頃、大川ブランドの家具は全国進出を遂げる。まず昭和28(1889)年、大阪で開催された「筑後物産展」で改良された大川家具を発表。河内の尽力で東京との取引も始まり、モダンなデザインによって「家具の町・大川」の名は全国に広まっていった。

昭和30年代後半には生産の近代化が進み、量産態勢を確立。大川を中心に1200の関連事業所が集まる一大産地を形成した。戦後のベビーブームによる急激な結婚や新築のラッシュも手伝い、大川は日本一の家具産地となったのである。

インテリアシティ大川の挑戦

熊本市と佐賀市を結ぶ国道208号線が大川市に入ると、がぜん家具屋の数が多くなる。軒を連ねていると言っても過言ではないほどだ。また、試しにグーグル・マップで「大川市 家具」と検索してみると、数え切れないぐらいの赤い丸印が出てくる。

が、地図の表示範囲を広げてみると、赤い丸はかつての中心地・榎津から周辺に大きく広がっていた。中には筑後川の対岸、佐賀県諸富町にも多くの丸

印が見られ、特に昇開橋で若津と結ばれている諸富津に集中している。

　諸富津周辺はかつて、筑後川沿いに倉庫が並んでいた。第2次世界大戦ではそれらが空襲の標的となり、終戦当時は焼け野原だった。昭和30年、大川と諸富を結ぶ大川橋と諸富橋が、相次いで完成すると、大川の家具業者が、諸富に進出するようになった。

「諸富町の積極的な誘致もあったんですが、榎津などは住宅が増え、騒音やほこり（木くず）の問題で、工場を構えているのが難しくなったんです。それに戦後、家具の需要が飛躍的に増え、工場を拡張する必要もあったので、町場から周辺に産地が広がったのです」

徹底した機械化で桐家具を製造するマーゼルンの本社工場

　諸富町で桐家具製造の㈱マーゼルンを経営する向井昇（大川ライオンズクラブ）がそう説明してくれた。マーゼルンの工場前には、家具資材を扱う広津和信（㈱広津商会）の大きな倉庫があり、インドネシアやマレーシア、ニューギニアから輸入された資材が、うずたかく積まれていた。

　こうして時代の流れに応じ、いくつかの転機を経験してきた大川家具だが、ここにきて、生活様式の変化や輸入家具の急増によって、かつてない危機に直面している。

　それでも、徹底した機械化によりコストを削減し、通販や生協など、従来とは異なる販路を開拓し成功している向井など、逆に事業を拡張している優良企業もある。また最近では、大川商工会議所と地域の有力企業を核に、著名デザイナーや九州大学大学院などが参画する産学連携の「チームOKAWA」が、新ブランド「SAJICA（サジカ）」を開発するなど、新しい動きも生まれている。

「家具の町」から「インテリアシティ」へ、新しい価値の提供をコンセプトに、大川家具の新しい挑戦が始まっている。

←大川組子：300年以上の歴史を誇り、木工の町大川ならではの技術が、今日に伝承されている（取材協力／木下工芸）

郷土自慢・クラブ自慢

大川市に創業150年以上を誇る老舗蒲鉾店・志岐蒲鉾本店（志岐博通社長：大川ライオンズクラブ／TEL 0944・87・2667）がある。志岐の蒲鉾はエソ、グチなどの新鮮な白身魚を一匹一匹包丁でさばき、自然の色艶、風味を大事にしている。

　実はこの志岐蒲鉾には、全国蒲鉾品評会の細工蒲鉾で、常に上位の賞を獲得する名人・志岐シズエさんがいる。細工蒲鉾には切り出し、刷り出し、絞り出し、わん種などの種類があるが、志岐さんは全国で唯一、刷り出し細工で浮世絵を制作。刷り出しとは型紙を用い、竹ベラで材料の色蒲鉾を刷り出していくという手法で、1点を完成させるためには、実に500〜700枚もの型紙が必要だという。

▼大川ライオンズクラブ（酒見学会長／51人）＝1961年3月24日結成／スポンサー：大牟田ライオンズクラブ

読者プレゼント

ネパール支援DVDとコーヒーを読者10人に

「獅子吼」(46ページ)の「ネパールで放映された支援活動」(ライオン一刈吉房)で紹介された福岡・ネパール児童教育振興会から、文中にあるDVD(日本語吹き替え版)に関心をお持ちの方に、DVDとネパールコーヒー「ヒマラヤン・アラビカ」(150グラム×2個)のセットが、10人の読者にプレゼントされます。

南蛮菓子・丸ぼうろを読者5人に

「ふるさと探訪」(51ページ)で紹介した福岡県大川市の名菓「池上の丸ぼうろ」を、5人の読者にプレゼントします。「ぼうろ」は南蛮渡来の焼き菓子で佐賀を代表する菓子として知られていますが、「池上の丸ぼうろ」はちょっと堅めの歯触りの良さが特徴。地元の人たちに愛される郷土のお菓子です。

応募要領：はがきに「ネパール」「丸ぼうろ」のいずれかを明記し、住所、氏名、電話番号、クラブ名をご記入の上、ライオン誌プレゼント係あてにご応募ください。本誌ウェブマガジン(www.thelion-mag.jp/modules/inquirysp/index.php?op=0)からも応募出来ます。本誌へのご意見、ご感想もお書き添えください。締切は6月末日。応募多数の場合は抽選。当選のお知らせはプレゼントの発送をもって代えさせて頂きます。

2009年7月号予告

THEME 例会

ライオンズ活動はまず例会出席から始まる。「クラブの最高議決機関」であると共に、仲間が集い親交を深める場でもある例会。会員が有意義に感じ、あるいは楽しい時を共有する例会にするためにはどうしたらいいいか。クラブの取り組み事例を紹介する。

伝言板

330複合地区国際協調・モンゴル支援委員会(岡野弘志委員長)は昨年11月、複合地区内497クラブを対象に「姉妹提携・友好クラブに関するアンケート」を実施、結果をまとめました。国際交流の進展が先細りになっていることがうかがえる他、「提携または友好関係を具体的にどのように進めているか」「将来この国のクラブとこうした形での提携・友好関係を結びたい」などの項目で興味深い結果が得られました。詳しいことをお知りになりたいクラブは、複合地区事務局(TEL03・3276・5400)へご連絡を。(同委員会委員・ライオン橋口啓二)

●訂正とお詫び

本誌5月号48ページ「クローズアップ」でライオン風間貞夫の生年は1940年でした。関係各位に深くお詫びし、訂正致します。

ライオン誌事務所来訪者芳名録

46 東京新宿北 梅沢 忠男
46 千葉県・四街道 楠岡 巌

Official publication of Lions Clubs International

Lions Clubs International Headquarters
300 W 22ND STREET OAK BROOK IL 60523-8842 USA
TEL.(630)571-5466 FAX.(630)571-8890
Web site: www.lionsclubs.org

ライオン誌日本語版事務所
〒104-0045 東京都中央区築地2-2-1 築地細田ビル7階
TEL.(03)3542-9571（代）　FAX.(03)3546-2630
E-mail. edit@thelion.jp
Website:www.thelion-mag.jp

編集室

その時、どう動く?

ライオン誌
日本語版委員
◉
坂本和彦
（青森県・鶴田）

7月は新年度のスタートです。国際会長からクラブ会長に至るまで、それに伴う組織役員たちもまた新たなスタートとなります。

要は、「どう動く」かが問われています。不安と期待を併せ持つのは当然のことかもしれません。

我が身の浅学非才さを顧みず、役を仰せつかる度に悩んだり恥をかいていたのが思い出されます。

その度、与えられた立場によって人の動きや協力の度合いが見えるようになりました。地区ガバナーに就任し、スタッフの一人から、「ガバナーは祭りの神輿ですよ。神輿は軽くなければ、担ぎ手は担げませんよ」と言われた時は、自分を変えることに努めたものです。

今、最も危惧されている会員減少に対する、「会員の維持・増強」は、クラブ会長に課せられた実力テストのようです。

ある本に、「真剣だと知恵が出る。中途半端だと愚痴が出る。いい加減だと言い訳ばかり……」とありました。今思うと、クラブ会長を仰せつかった時が最も自分との戦いがあった気が致します。

「失敗の最大の原因は行動しないこと」を信条に、「役割果たして役割とすべし」を具現化する。その行動は今なお続いています。

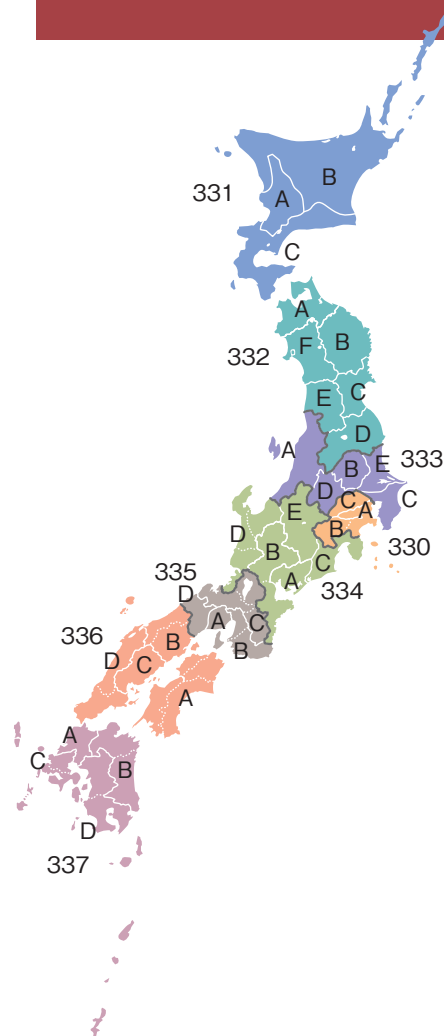
運営や運動が思うように進まなかった時など、リーダー自らの反省のない責任転嫁は、メンバーのやる気を失わせてしまいます。人間は、「何をやるかでは、動かない。誰がやるかで動く」と言った人がいました。なる程です。

会員維持・増強を目標に掲げたら、「その時、どう動く」かが問われます。目標とは、予測でなく意志。「こうしたいではなく、こうするのだ」という強い気持ちや意志だと強調したいです。途中であきらめたり、投げ出すのは目標ではありません。必ず達成出来るような低い目標でもいけないと思います。7月の新たなスタート。「その時、どう動く?」かです。

日本のライオンズ

2009.3.31　ServannA報告による

地区	都道府県	■クラブ数	■会員数	期首から の入会	期首から の退会	期首から の増減
330-A	東京	202	5,573	776	352	424
330-B	神奈川・山梨・東京	191	5,318	410	319	91
330-C	埼玉	104	2,782	155	147	8
330	計	497	13,673	1,341	818	523
331-A	北海道（道央）	77	2,752	207	194	13
331-B	北海道（道北・道東）	91	2,708	111	159	-48
331-C	北海道（道南）	59	1,903	118	165	-47
331	計	227	7,363	436	518	-82
332-A	青森	68	1,935	96	136	-40
332-B	岩手	55	2,181	550	96	454
332-C	宮城	81	1,538	92	111	-19
332-D	福島	77	2,097	144	146	-2
332-E	山形	58	1,944	124	110	14
332-F	秋田	52	1,404	152	84	68
332	計	391	11,099	1,158	683	475
333-A	新潟	79	2,997	160	180	-20
333-B	栃木	57	1,447	83	64	19
333-C	千葉	133	3,584	214	233	-19
333-D	群馬	55	2,155	227	119	108
333-E	茨城	81	3,027	120	151	-31
333	計	405	13,210	804	747	57
334-A	愛知	121	5,822	340	284	56
334-B	岐阜・三重	87	3,939	249	211	38
334-C	静岡	84	3,379	185	174	11
334-D	富山・石川・福井	101	4,288	236	215	21
334-E	長野	53	2,257	128	67	61
334	計	446	19,685	1,138	951	187
335-A	兵庫（東）	108	2,889	165	172	-7
335-B	大阪・和歌山	204	6,675	447	457	-10
335-C	滋賀・京都・奈良	122	4,371	230	225	5
335-D	兵庫（西）	67	2,243	203	99	104
335	計	501	16,178	1,045	953	92
336-A	徳島・高知・香川・愛媛	156	6,105	354	428	-74
336-B	鳥取・岡山	99	3,476	194	258	-64
336-C	広島	104	3,908	239	238	1
336-D	島根・山口	105	3,471	216	242	-26
336	計	464	16,960	1,003	1,166	-163
337-A	福岡・長崎	118	4,776	324	285	39
337-B	大分・宮崎	81	2,565	183	203	-20
337-C	佐賀・長崎	84	3,068	217	265	-48
337-D	熊本・鹿児島・沖縄	144	4,305	314	380	-66
337	計	427	14,714	1,038	1,133	-95
総計		3,358	112,882	7,963	6,969	994
世界のライオンズの		7.4%	8.5%			

日本ライオンズクラブ分布図

世界のライオンズ

2009.3.31　国際協会集計

ライオンズ国または領域	205
世界のクラブ数	45,146
世界の会員数	1,322,679
期首からの増減	17,058

国	クラブ数	会員数	期首から の増減
アメリカ	12,720	375,469	-6,207
インド	5,403	173,067	15,621
韓国	2,002	85,731	2,107

ライオン誌6月号
昭和33年12月19日付第三種郵便物認可
2009年(平成21年)5月20日発行 毎月1回20日発行 定価180円 送料実費76円 第51巻第12号
発行所 ライオンズクラブ国際協会ライオン誌日本語版事務所 〒104-0045 東京都中央区築地2-2-1 築地細田ビル7階 Tel 03-3542-9571
印刷所 共同印刷株式会社

世界中の子どもたちの笑顔が見たい!